

第9回インフラツーリズム有識者懇談会 資料



1. 前回までの議論の概要
2. インフラツーリズム魅力倍増プロジェクト
各モデル地区の進捗状況と今後の予定
3. 「インフラツーリズム拡大の手引き」改訂の骨子案

1. 前回までの議論の概要

1. 前回までの議論の概要 — 懇談会の開催経緯 —

◆ インフラツーリズム有識者懇談会

第1回 (H30.11.9)	・インフラツーリズムのこれまでの取組と課題 ・インフラツーリズムの今後の方向性
第2回 (H30.12.25)	インフラツーリズムの拡大に向けて
第3回 (H31.2.26)	拡大に向けたまとめと来年度の取組について
第4回 (R1.6～7)	・モデル地区(5地区)の選定 ・プロジェクトロゴマークの決定
第5回 (R2.1.28)	・各モデル地区の進捗状況 ・今年度成果とりまとめの方向性
第6回 (R2.8.5)	・各モデル地区の進捗状況 ※現地協議会、ファムツアーの実施結果を踏まえた事業実施方針、 ツアー提案と今後の検討項目の整理 ・追加モデル地区(2地区)の選定 ※白鳥大橋(北海道)、日下川新規放水路(高知県)を選定
第7回 (R3.3.23)	・インフラツーリズムの拡大方策について...モデル地区での取組を分類 ・各モデル地区の進捗状況...現地協議会やモニターツアーの実施状況
第8回 (R3.9.29)	・各モデル地区の進捗状況...現地協議会やモニターツアーの実施状況 ・「インフラツーリズム拡大の手引き」改訂版の概要について ・事業全体のとりまとめと今後の予定

1. 前回までの議論の概要 —モデル地区の概要—

①鳴子ダム【宮城県大崎市】

- ・日本人の技術者により造られた日本初のアーチダムで選奨土木遺産
- ・周辺には温泉、名勝、史跡等があり、農業遺産である大崎耕土も含めた流域連携モデル



②ハツ場ダム

- 【群馬県吾妻郡長野原町】
- ・建設中ダムでの多彩な見学ツアー（やんばツアーズ）を開催
- ・建設段階から管理段階への移行モデル



③天ヶ瀬ダム【京都府宇治市】

- ・宇治市街地に近接
- ・立地を活かし、DMOと連携したツアー造成、淀川水系支流の高山ダムとの組み合わせなど広域連携モデル



④来島海峡大橋 他

- 【愛媛県今治市】
- ・しまなみ海道上の世界初の三連吊り橋であり、塔頂体験ツアーを開催
- ・先行実施している明石海峡大橋のノウハウも取り入れ、長大橋のモデル



⑤鶴田ダム

- 【鹿児島県薩摩郡さつま町】
- ・九州最大の重力式コンクリートダムで水位低下時には明治期の発電所遺構が出現
- ・霧島連山や桜島等の広域周遊モデル



⑥白鳥大橋【北海道室蘭市】

- ・1998年に完成した東日本最大の吊り橋で、寒冷地における国管理の長大橋
- ・令和2年7月12日開業の民族共生象徴空間「ウポポイ」や登別温泉、クルーズが人気を集める室蘭港等との地域連携周遊モデル



⑦日下川新規放水路

- 【高知県高岡郡日高村】
- ・日本最長級(5.3km)かつ高度な技術が必要とする水路トンネルを現在工事中
- ・仁淀ブルー等の観光資源との連携を進めるとともに、工事現場の見学を通して、放水路、調整池等のインフラ施設と水害の関わり、歴史を紹介・学習する工事段階から管理段階への移行モデル。



1. 前回までの議論の概要

— 第8回懇談会でいただいた主なご意見等(一部抜粋) —

モデル地区の進捗状況と今後の実施方針

- ・「誰にどのように売るのか」を踏まえ、各地域の状況等考慮しつつ、ガイド内容や販売体制等について検討を行う必要がある。
- ・モデル地区の自走に向けては、何が自走かを改めて考える必要がある。組織化、ストーリー化、商品化の面で地域それぞれの目指すべき状態の見直しが必要である。
- ・自走はあくまで手段の1つであり、インフラツーリズム取組や波及効果をどう地域に広げていくのかが課題である。
- ・インフラツーリズムに取組む目的を明確にする必要がある。民間事業者を巻き込むためには、誰の為にどのように地域に貢献できるのか、また、キャッシュフローも含め、事業戦略をしかけていくために今後考えていくべきである。

「インフラツーリズム拡大の手引き」改訂版の方向性

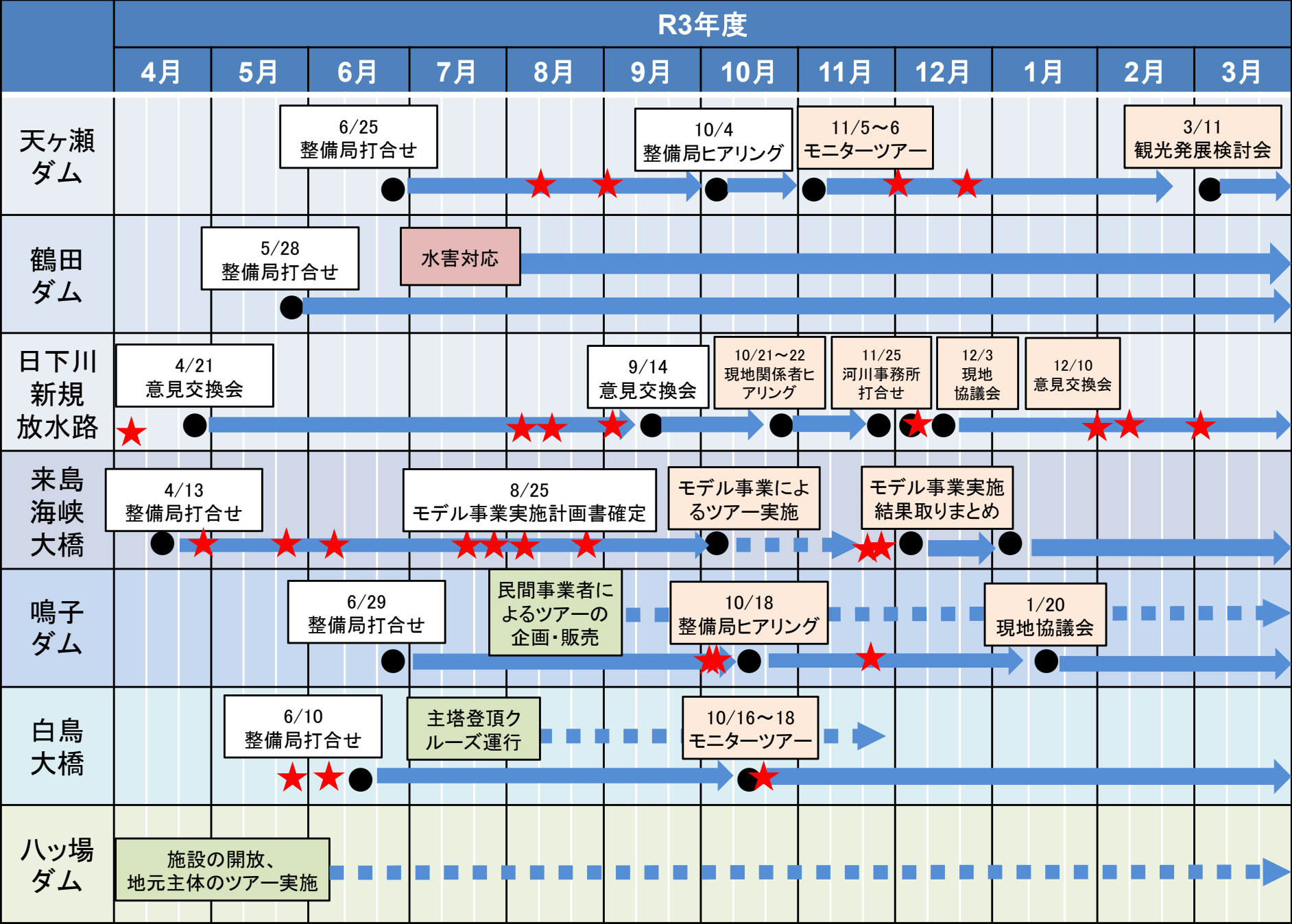
- ・インフラツーリズムの自走化に向けて、必要な取組事項については、各地区の状況によって順序が異なる為、フロー図ではなく、チェックリストで整理すべき。
- ・インフラツーリズムに取り組む目的、「何のためにやるのか」「どのような効果を期待するのか」を提示するという意味で、モデル地区の成功事例を掲載したうえで、実現するための手法を紹介するという流れとすると、インフラツーリズムを実施する主体に対し参考になると考える。
- ・大規模なインフラ施設の管理者だけでなく、中小規模の施設管理者や自治体、観光協会等に対しても、参考資料となるよう取りまとめる必要がある。
- ・手引きのターゲットが施設管理者である為、冒頭で「インフラツーリズムとは何か」事業全体のイメージを把握できる部分を入れる必要がある。
- ・冒頭で全体として取り組むべき項目を提示し、その後読み進めることで具体的な作業項目を詳細に把握できる流れにすると施設管理者が活用しやすい。

2. インフラツーリズム魅力倍増プロジェクト 各モデル地区の進捗状況と今後の予定

2. 各モデル地区の進捗状況と今後の予定

◆R3年度の各モデル地区における協議会、モニターツアー等の実施状況

★: 現地関係者打合せ等
...: ツアー実施



2. 各モデル地区の進捗状況と今後の予定

◆R4年度の各モデル地区における協議会、モニターツアー等の実施状況、予定

★: 現地関係者打合せ等
...: ツアー実施

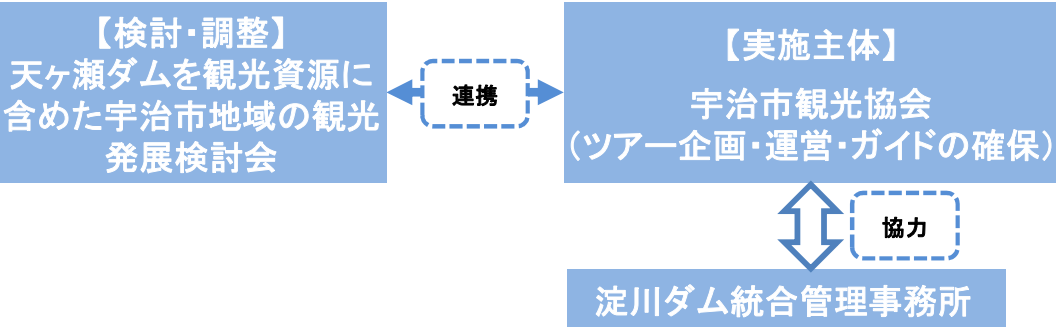
	R4年度(上半期)						R4年度(下半期)
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	予定
天ヶ瀬ダム	4/13 意見交換会 ●★●	4/25 意見交換会		7/29 観光発展検討会 ●★	★		体制構築に向けた準備、小・中学生向けコンテンツ・学習教材の作成
鶴田ダム			6/17 整備局打合せ ●				自走化に向けて実施方針案を協議予定
日下川新規放水路		5/12 意見交換会 ●	5/17 整備局打合せ ●				教育旅行向けのコンテンツ内容の検討と体制構築に向けた準備
来島海峡大橋			6/17 整備局打合せ ●			R4年度モデル事業実施予定 ●	9月～R4年度モデル事業実施予定
鳴子ダム	民間事業者によるツアーの企画・販売 ...	5/18 整備局打合せ ●					自走化に向けて実施方針案のアップデート
白鳥大橋	主塔登頂クルーズ運行 ...	5/11 整備局打合せ ●					商品の質向上・バリエーション化に向けて方針を検討予定
ハッ場ダム	施設の開放、地元主体のツアー実施 ...						施設の開放、地元主体のツアー実施

2. 各モデル地区の令和4年度のスケジュール

	令和4年度													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
(全体)	手引きの改定検討					第9回 有識者懇談会 ・R4年度上期までの成果報告 ・手引き改定(案)の提示	手引きの改定検討					第10回 有識者懇談会 ・これまでの取組の中間総括 ・手引きの改定		
							全国の取組事例をヒアリング	↑ 手引きに反映						
天ヶ瀬ダム	自走に向けた検討						自走に向けた検討							
鶴田ダム	自走に向けた検討						自走に向けた検討							
日下川新規放水路	自走に向けた検討				ガイド研修		自走に向けた検討							
来島海峡大橋			モデル事業者の公募				事業者によるモデルツアー実施	自走に向けた検討						
鳴子ダム	地域によるツアー実施 (更なる向上のための支援)						地域によるツアー実施 (更なる向上のための支援)							
白鳥大橋	地域によるツアー実施 (更なる向上のための支援)						地域によるツアー実施 (更なる向上のための支援)							
ハッ場ダム	地域による自走						地域による自走							

2. 各モデル地区の進捗状況と今後の予定 -天ヶ瀬ダム①-

これまでの体制・運営スキーム



モデル地域ステークホルダー

天ヶ瀬ダムを観光資源に含めた宇治市地域の観光発展検討会(H29～)
宇治市、宇治商工会議所、宇治市観光協会、京阪ホールディングス(株)、
(一社)お茶の京都DMO、京都府、近畿地方整備局、淀川河川事務所、
琵琶湖河川事務所、淀川ダム統管理事務所

➡ 今後、協議会への移行を検討中

<その他関与者>

—

	R3年度				R4年度			
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
天ヶ瀬ダム		●6/25 整備局打合せ	●10/4 現地関係者ヒアリング	11月 モニターツアー	●3/1 観光発展検討会	●7/29 観光発展検討会	自走化に向けた検討	

	これまでの取組	今後に向けた課題	今後の実施・検討項目(案)
① 運営体制の構築	- 宇治市観光協会を中心としたツアー運営体制の構築 - 協議会の立ち上げに向けた検討	「河川空間のオープン化」の活用へ向けた課題点の整理 - ガイド人材の育成体制の確立 - 協議会立ち上げに向けた課題点の整理	- 協議会の立ち上げに向けた準備 「河川空間のオープン化」を活用した体制構築
② インフラ施設見学の深度化・地域の観光資源と連携した内容の検討	地域の資源や現状と相性が良い、コンテンツ、ターゲットの設定	- 流域内事業者との連携したインフラツーリズム商品の造成 - ダム周辺の整備状況と設定したターゲットに合わせた、見学ルート、提供コンテンツ内容の設定	- 流域内観光資源の整理、コンテンツ化に向けた検証 - ダム周辺の整備状況に合わせたコンテンツや受入の方法の整備・整理
③ インフラツーリズムの実践	モニターツアーの実施	- プロモーションの検討 - ガイド育成体制構築の為のツール整備	ターゲット設定や商品バリエーションに合わせたプロモーション戦略の方針の検討

2. 各モデル地区の進捗状況と今後の予定 -天ヶ瀬ダム②-

◆事業者向けモニターツアー

<行程>

令和3年11月5日、6日

行程案					
着時間	発時間	視察箇所	視察内容	備考	案内(ガイド)
11:30	11:45	JR宇治駅	改札付近集合		-
12:00	13:10	萬福寺(昼食)	昼食&ブリーフィング		-
13:10	13:30	萬福寺(視察)	境内視察		-
13:50	14:20	天ヶ瀬ダム管理支所	施設説明		-
14:20	15:00	天ヶ瀬ダム	点検放流&キャットウォーク等特別見学		ダム管理者
15:00	15:30	ダム周辺	地下放水路施設敷地・駐車場予定地等		ダム管理者
15:30	17:00	天ヶ瀬ダム管理支所	意見交換会		
17:30		JR宇治駅	解散		

<参加者>

以下分野に知見のある事業者が参加

- ・ 教育旅行
- ・ 欧米マーケット、アジアマーケット
- ・ 仕入・商品企画、ガイド育成
- ・ 個人旅行
- ・ その他旅行会社、バス会社 等



2. 各モデル地区の進捗状況と今後の予定 -天ヶ瀬ダム③-

<意見交換会要旨>

1. ターゲットについて

- ・ 教育旅行向け。宇治市内のコンテンツと組合せてクラス別、グループ別で対応する形。

:宇治市内・京都府内の小学校の社会科見学先

日本全国の中学・高校の教育旅行の見学先

- ・ インバウンド向けとしては、ターゲットとする国を検討する必要がある。

:水資源に乏しい国へのアプローチ

2. 商品の方向性について

- ・ 教育旅行向けに、冒頭部分インフラ施設の説明部分をターゲットとする年齢層等に合わせて作りこむ必要がある。現状のものは情報が多く、学生向けとしては理解が難しいイメージ。
- ・ 教育旅行マーケットで考えると、クリーンな電力、水資源、治水、ジオ、産廃の切り口で教育的見地での商品づくりが順路と思われる。
- ・ 体験内容としては、キャットウォークを歩き、臨時放流を間近で見えることが大きな魅力であり、他のダム施設等と差別化を図ることができると感じた。
- ・ 萬福寺への訪問だけだと遠方からの訪問者に対して、訴求力が弱い可能性があるので、宇治(茶をテーマにした体験や)や他の周辺施設(平等院や天ヶ瀬ダム)への観光をパッケージにすると良いと思う。
- ・ 座学的な事前説明は最小限にとどめ、現場で最大限に時間を利用できるようにするのが良いと考える。

3. 受入体制・環境整備について

- ・ 顧客体験の価値向上・安全面の確保という点で、スタッフの方が訪問者にしっかりとアテンドし、案内をしていくことは必須
- ・ 来訪者の満足感につながる環境・体制整備は大きな課題。
- ・ インバウンド向けという点では、実際外国人が来た時にどれだけ外国語での対応が可能なのか。また、特に安全を確保するためのガイドンスやツアー中の注意喚起として、必要なことをしかるべきタイミングで伝える必要があり、その対応ができる体制を整える必要がある。
- ・ キャットウォーク+放水は魅力的ではあるが、階段上り下りへの安全管理は十分な注意が必要(怪我リスク)。

2. 各モデル地区の進捗状況と今後の予定 -天ヶ瀬ダム④-

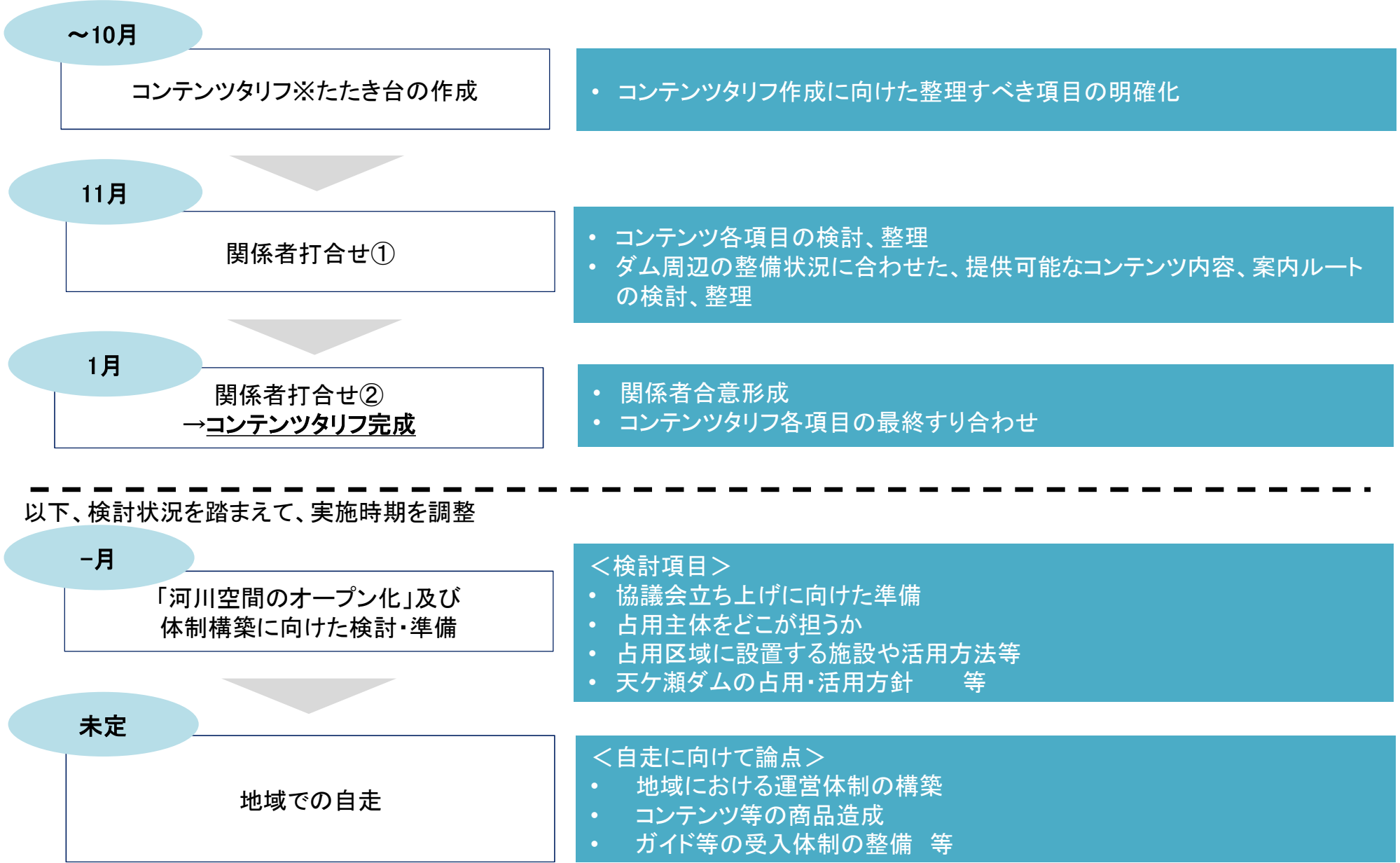
		2022年(R4)				2023年(R5)				2024年(R6)				2025年(R7)				2026年				2027年～							
		4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3				
外部環境/トピックス		インバウンド 受入再開								新名神 大津JCT～城陽 JCT・IC開通予定				阪神高速 リニューアル完了								新名神 八幡京田辺JCT・IC～高槻 JCT・ICJCT・IC開通予定							
		教育旅行の 実施平準化へ												大阪万博 (4-10月)															
整備状況		ダム体感広場使用不可・2024年中に整備予定（宇治市）																											
		駐車場整備 ※ツアー予約時 のみ利用可								展望テラスの 整備検討								・天ヶ瀬森林エリア・旧志津川発電エリア 整備検討中				※整備状況による							
使用可能な コンテンツ		キャットウォーク・ダム天端・点検放流 駐車場																											
ターゲット (※受入日基準)		(団体) 宇治市及び周辺市町村の小学校・中学校向け																											
		(団体) 全国の教育旅行（重点：中学校/高校）																											
		(個人/団体) 一般観光客（日本人）																											
		(個人/団体) インバウンド																											
ツアー・コンテンツ (検討内容)		小学校・中学校向け コンテンツの造成				高校生向け コンテンツの造成				個人一般向け コンテンツの造成				以降、観光客や旅行会社等の評価や要望により コンテンツ等の追加・改修															
		学習教材の作成								個人インバウンド向け コンテンツの造成				※団体向け（日本人/インバウンド）商品は 教育旅行向けコンテンツより流用															
		教育旅行向けガイドマニュアル及び ガイドシナリオ ※都度改修				一般向けを 追加				多言語化																			
事業・ツアー実施体制 (※一部仮想定)		河川空間のオープン化の活用へ向けた準備																											
		協議会の立ち上げ 検討				都市・地域再生等利用区域の指定等に関する 要望→地域の合意→利用区域の指定・公表→許可申請																「河川空間のオープン化」の活用（占有開始）							
																						ツアー・コンテンツ内容に合わせた、 その他事業者との連携方の検討・調整							
		<団体客> 受入に向けたマイルストーン												<個人客> 商品開発・情報発信のマイルストーン															

14

2. 各モデル地区の進捗状況と今後の予定 ー天ヶ瀬ダム⑤ー

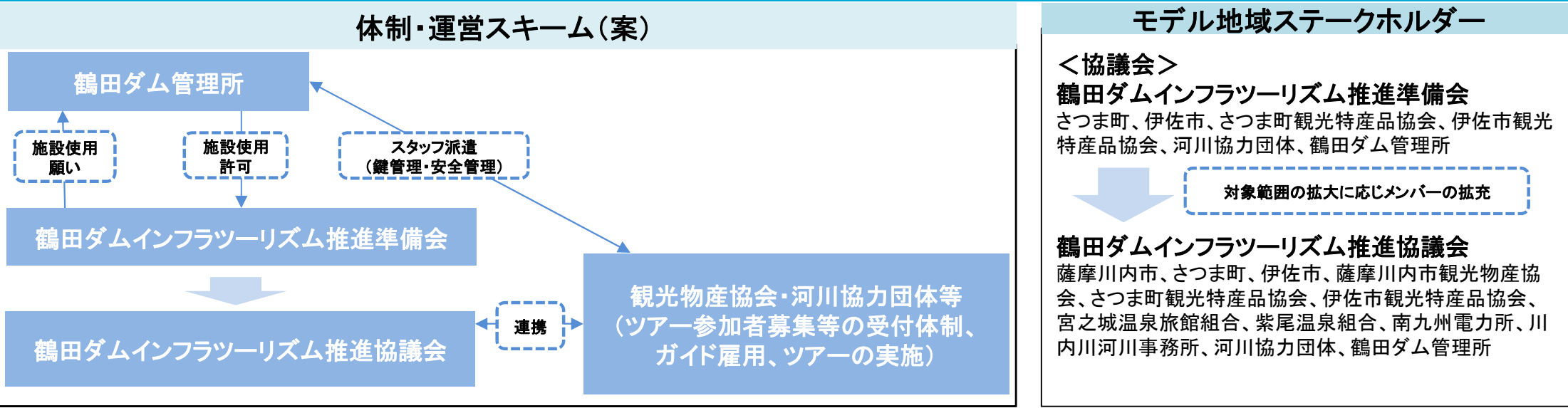
◆ 今後の進め方

自走化に向けた検討



※コンテンツタリフ:コンテンツの企画内容、実施期間、販売価格、販売手数料等販売に必要な事項を表にとりまとめたもの

2. 各モデル地区の進捗状況と今後の予定 -鶴田ダム①-



	R3年度				R4年度			
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
鶴田ダム	●5/28 整備局打合せ	水害対応			●6/17 整備局打合せ		自走化に向けた検討	

	これまでの取組	今後に向けた課題	今後の実施・検討項目(案)
① 運営体制の構築	- 薩摩川内市観光物産協会を中心としたツアー実施体制の構築 - 地域協議会等、地域での検討体制の構築	- 自走可能な運営体制の構築 - ガイド人材(質・量)の確保、派遣・育成体制の確立	ガイド人材の確保並びに派遣・育成体制の確立
② インフラ施設見学の深度化・地域の観光資源と連携した内容の検討	団体向け・個人向けツアー内容に関する検討	ターゲットに合わせたコンテンツや商品のバリエーション	- 観光物産協会を中心とした、旅行商品の造成・販売の検討 - 事業者や各市町村を巻き込んだ、広域連携の検討
③ インフラツーリズムの実践	モニターツアーの内容の検討と実施	- ターゲットの精緻化 - ターゲットや販売経路に合わせた情報発信手法の整備	- ターゲット設定や商品バリエーションに合わせた、プロモーション戦略の方針を検討 - 鶴田ダムを組み込んだ旅行商品の企画・販売・オペレーション

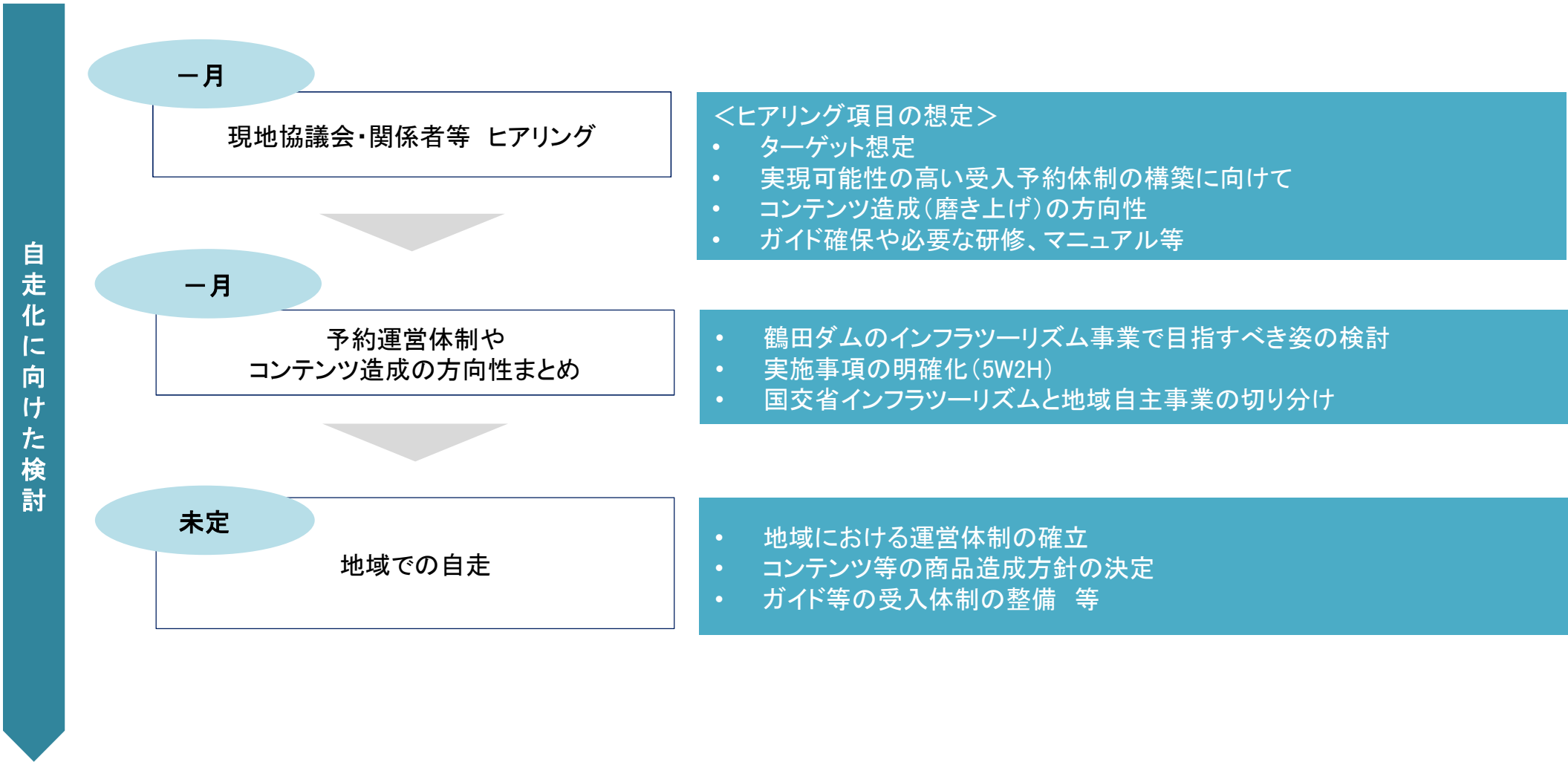
2. 各モデル地区の進捗状況と今後の予定 -鶴田ダム②-

◆ 今後想定される実施内容

分類	実施内容	ポイント、課題など
個人向け	①近隣温泉施設の宿泊プランと鶴田ダム見学をパッケージした特別プログラム	自治体の観光部局や温泉地と連携、ダム見学+プレミアム企画を実施
	②1名からでも受け入れ可能な満足度の高い個人客受け入れツアー	予約制のダムコンシェルジュによる案内、時間によりJパワー発電室も見学JPと協議を実施
	③鶴田ダム大鶴湖遊覧船の期間限定特別運行	NPOが所有する船を利用した遊覧ツアー(接岸施設の整備も検討)。貯水率が低い場合は運航ができない。
	④国立天文台VERAや山城ガイドの素材を組み合わせたツアー	知的好奇心に訴求するツアーとして、ダム見学+国立天文台、山城のガイドツアーを組合せ。
	⑤水力発電施設の見学と組み合わせたダムの利水見学ツアー	ダム+Jパワー発電所の見学とJパワー非売品グッズの提供などを組合わせたプレミアム企画。JPと協議を実施
	⑥点検放流の実施	地域イベントとして実施(当日に特別見学ツアーなど実施が可能か検討)
団体向け	①小中学生に向けた教育旅行プログラム(修学旅行、社会科見学、少年自然の家)	ペーパークラフトによるダム模型製作体験+ダムレンジャーによる操作室での説明、学校団体への提案、周知をどのように行うか。 R4に青少年研修センターの新規カリキュラムとして実施予定
	②高齢者・障がい者および同伴者を対象としたバリアフリーツアー	高齢者や障がい者を対象にバリアフリーツアーを提供。ハード整備が必要。
	③ダム建設、治水技術を学ぶテクニカルビジット(技術視察)	国内外の土木技術者に向けた専門性の高いダムツアーを提供。説明資料の見直しが必要。
	④焼酎貯蔵タイムカプセルツアー	ダム見学+ダム内部に地元蔵元の焼酎を貯蔵できるツアー。令和2年9月から貯蔵開始。R4に仕組みを構築

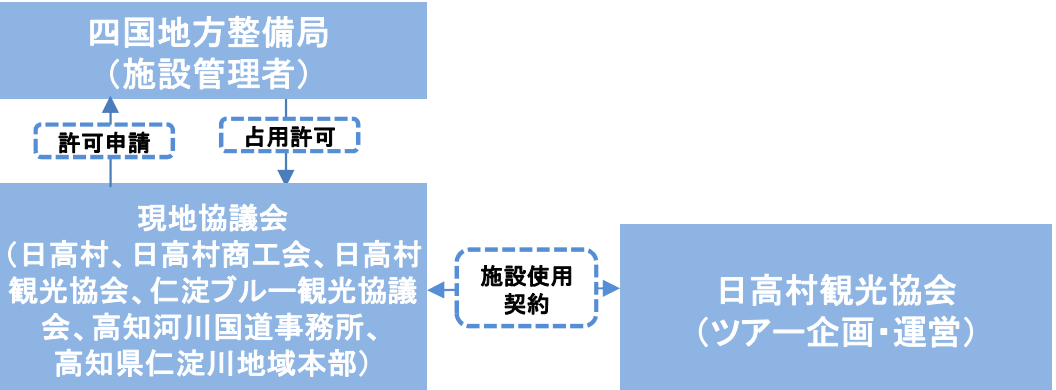
2. 各モデル地区の進捗状況と今後の予定 -鶴田ダム③-

◆ 今後の進め方



2. 各モデル地区の進捗状況と今後の予定 -日下川新規放水路①-

体制・運営スキーム(案)



現地検討主体構成員

- <現地協議会>**
日高村、日高村商工会、日高村観光協会、仁淀ブルー観光協議会、高知河川国道事務所、高知県仁淀川地域本部
- <ワーキンググループ(作業部会)>**
日高村、日高村観光協会、仁淀ブルー観光協議会
- <その他関与者>**
—

	R3年度				R4年度			
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
日下川新規放水路	●4/21 意見交換会	●9/14 意見交換会	●12/3 現地協議会		●5/12 意見交換会 ●5/17 整備局打合せ	8/30 ガイド研修		
	これまでの取組		今後に向けた課題		今後の実施・検討項目(案)			
① 運営体制の構築	・ 自走化に向け、運営体制構築の検討		・ 自走可能な運営体制の構築 ・ ガイド人材(質・量)の確保、育成体制の確立		・ 「河川空間のオープン化」に基づく体制構築			
② インフラ施設見学の深度化・地域の観光資源と連携した内容の検討	・ 地域の資源や現状と相性が良い、コンテンツ、ターゲットの設定		・ 設定したターゲットに合わせた、見学ルート、提供コンテンツ内容の設定		・ 実際の販売を念頭においた、教育旅行向けコンテンツ・ガイドの質向上に関する検討(ガイド内容・見学ルート等詳細の設定) ・ その他ターゲットへ向けたコンテンツの検討			
③ インフラツーリズムの実践	・ ガイドマニュアルの整備及び研修の実施		・ 認知拡大に向けたプロモーション手法の検討		・ ターゲット設定や商品バリエーションに合わせたプロモーション戦略の方針の検討			

2. 各モデル地区の進捗状況と今後の予定 -日下川新規放水路②-

◆ガイド研修

＜行程＞
令和4年8月30日（火）

開始時間	終了時間	内容	場所	備考
13:30	13:35	集合・講師顔合わせ	鹿島建設見学所	
13:35	15:10	現場視察	見学所→斜坑→本坑→ゲート(呑口)→長靴洗淨→見学所	・顧客導線、ガイドシナリオの確認 ・講師からの助言 ※本格的な助言は下段ワークショップ時に実施
15:10	15:30	休憩＆移動		
15:30	16:00	ワークショップ①	鹿島建設見学所	講師からの現地視察を踏まえたフィードバック
16:00	17:30	ワークショップ②	鹿島建設見学所	・フィードバックを踏まえ、コンテンツカルテを元としたコンテンツ検討

- ＜参加者＞
- 日高村観光協会、日高村、高知河川国道事務所、仁淀ブルー観光協議会(8名程度)等

2. 各モデル地区の進捗状況と今後の予定 -日下川新規放水路③-

<ワークショップ意見要旨>

- 顧客満足度を高める為、インフラ施設の説明を全て現場で行うよりも、事前に動画等で全体的な説明を行うべき
- 3～4クラスの受け入れ時、ローテーションで案内を行うにあたり、見学順(放水路、調整池、神母樋門)によって、説明内容が変わる可能性がある為、事前学習のツールを作成し、基本的な内容は事前の学習を行う等対応が必要(1クラス受入時の説明内容をベースに、修正を行う)
- 教育旅行向けコンテンツのメインテーマを定めるべき
 - 防災学習/治水の歴史/SDGs(水資源を守る)がテーマ
 - 副題、インフラ施設で働く人にフォーカス
- バスで案内を行う際には、道中で、災害時の水が達したライン等わかる看板を設置するのはどうか
- インフラを作った人、守っている人の想いを共有する(建設に携わって人の思いを動画として残す等)
- 生徒の移動、回し(ガイドは同乗するか等)については今後整理が必要

<ガイド研修の様子>



2. 各モデル地区の進捗状況と今後の予定 -日下川新規放水路④-

◆ 今後の進め方

ツアー実施に向けた検討

～10月

事業の実施項目及びスケジュールの整理

＜整理項目＞

外部環境やインフラ施設周辺の整備状況等

10月中

関係者打合せ
→事業実施スケジュールの作成

・ 関係者合意形成

＜各コンテンツ販売、体制構築等の検討スケジュール＞

以下、事業実施スケジュールを踏まえて、実施時期を調整

3月末まで

教育旅行向けコンテンツ内容の検討

＜検討内容＞

- ・ 案内ルートの策定
- ・ ガイドの説明内容
- ・ 事前・事後学習ツールの作成
- ・ プロモーション・販路構築

-月

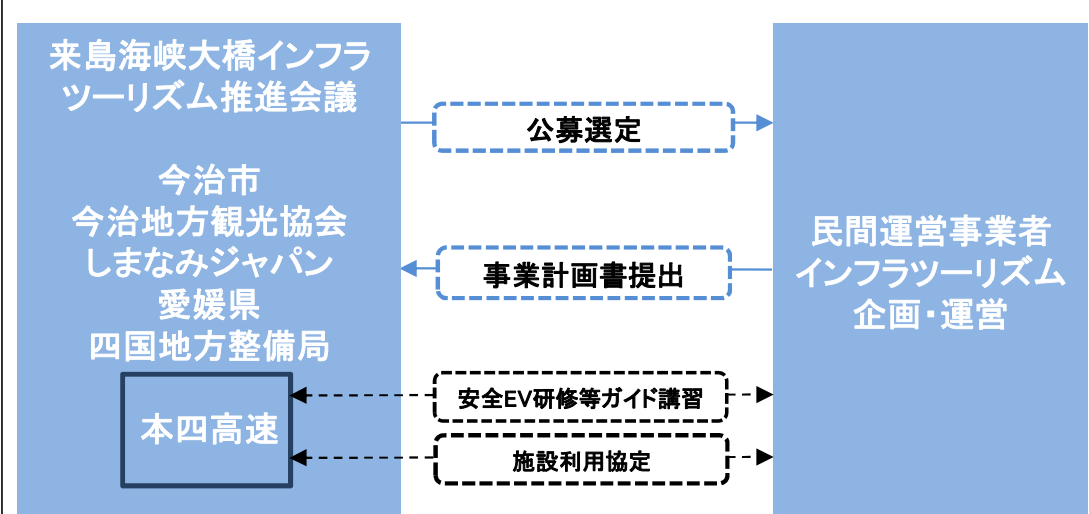
「河川空間のオープン化」及び
体制構築に向けた検討・準備

＜検討項目＞

- ・ 占用主体をどこが担うか
- ・ 占用区域に設置する施設や活用方法等
- ・ 日下川新規放水路の占用・活用方針 等

2. 各モデル地区の進捗状況と今後の予定 -来島海峡大橋①-

体制・運営スキーム(案)



モデル地域ステークホルダー

<協議会>
環瀬戸内海地域交流促進協議会
四国経済連合会、中国経済連合会、兵庫県、岡山県、広島県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、四国運輸局、中国地方整備局、四国地方整備局、本州四国連絡高速道路

<ワーキンググループ>
来島海峡大橋インフラツーリズム推進会議
今治市、今治地方観光協会、しまなみジャパン、愛媛県、四国地方整備局、JB本四高速

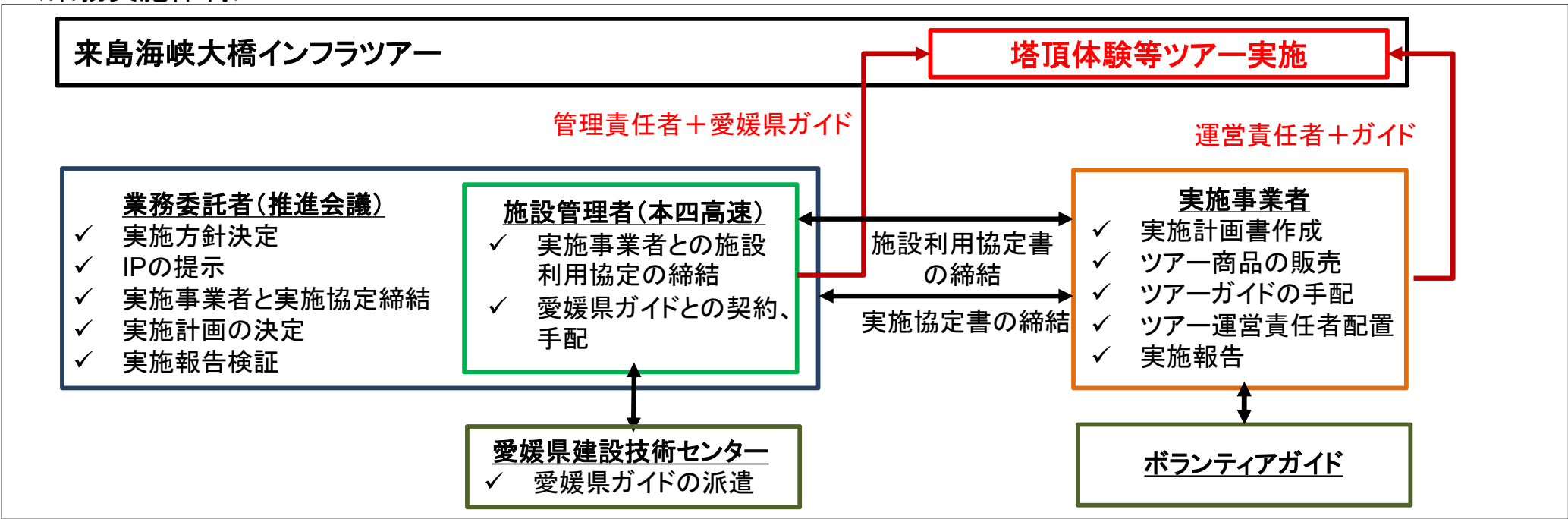
<モデル事業実施事業者>
(株)しまなみ、(株)JTB(松山支店)

	R3年度					R4年度				
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	
来島海峡大橋	●4/13 整備局打合せ	モデル事業者の公募等	10月・11月 モデル事業による ツアー実施	モデル事業検証 自走化に向けた 検討		●6/17 整備局打合せ		9月・11月 モデル事業による ツアー実施		
	これまでの取組			今後に向けた課題			今後の実施・検討項目(案)			
① 運営体制の構築	・モデル事業における運営体制の検証			・受付・案内業務を民間事業者へ委託し、複数の実施事業者と連携した運営体制の構築 ・通常のツアーにおける運営・販売体制の見直し			・予約・実施体制における課題の整理			
② インフラ施設見学の深度化・地域の観光資源と連携した内容の検討	・周辺観光資源との連携したプラン内容の設定(サイクリング・クルーズ・フォト・フォトウェディング) ・安全確保の為に人員配置等に関する検討			・コンテンツや商品のバリエーション化 ・原価圧縮に向けた、人員体制の見直し			・多種多様なツアー内容を実施するため、実施事業者を多数設定(モデル事業での検証)			
③ インフラツーリズムの実践	・R3年度モデル事業実施			・売上増に向けた検討			・認知拡大に向けた、プロモーション戦略の方針を検討 ・事業自走化に向けた収支計画の検討			

2. 各モデル地区の進捗状況と今後の予定 -来島海峡大橋②-

◆ モデル事業実施結果

＜業務実施体制＞



＜ツアー日程＞

令和3年10月15日～11月30日

※新型コロナウイルス感染症拡大により緊急事態宣言が発令された為、ツアー実施期間を変更。プロモーション(販売)についても、10月4日からの実施に変更を行った。

＜催行率＞()内は可能数

- ・ ツアー実施日数: 9日(25日) 36%
- ・ ツアー本数: 20本(91本) 21% ※内訳: A 18本, C 2本, B、Dは催行なし
- ・ 参加人員: 104人(1, 500人) 7%

＜参加者属性＞

愛媛県約55%、首都圏約20%、中国地方約12%、関西圏約10%。

2. 各モデル地区の進捗状況と今後の予定 -来島海峡大橋③-

◆ モデル事業で実施したツアー内容

◎Aプラン: 来島海峡大橋主塔登頂体験＋来島海峡潮流観潮

○募集人員18名

ようみいきいき館～馬島→【来島海峡大橋8P主塔登頂】→ 馬島 ～～～～～～ ようみいきいき館



◎Cプラン: 来島海峡大橋主塔登頂＋桁外面作業車体験＋バーベキュー＋来島海峡観潮

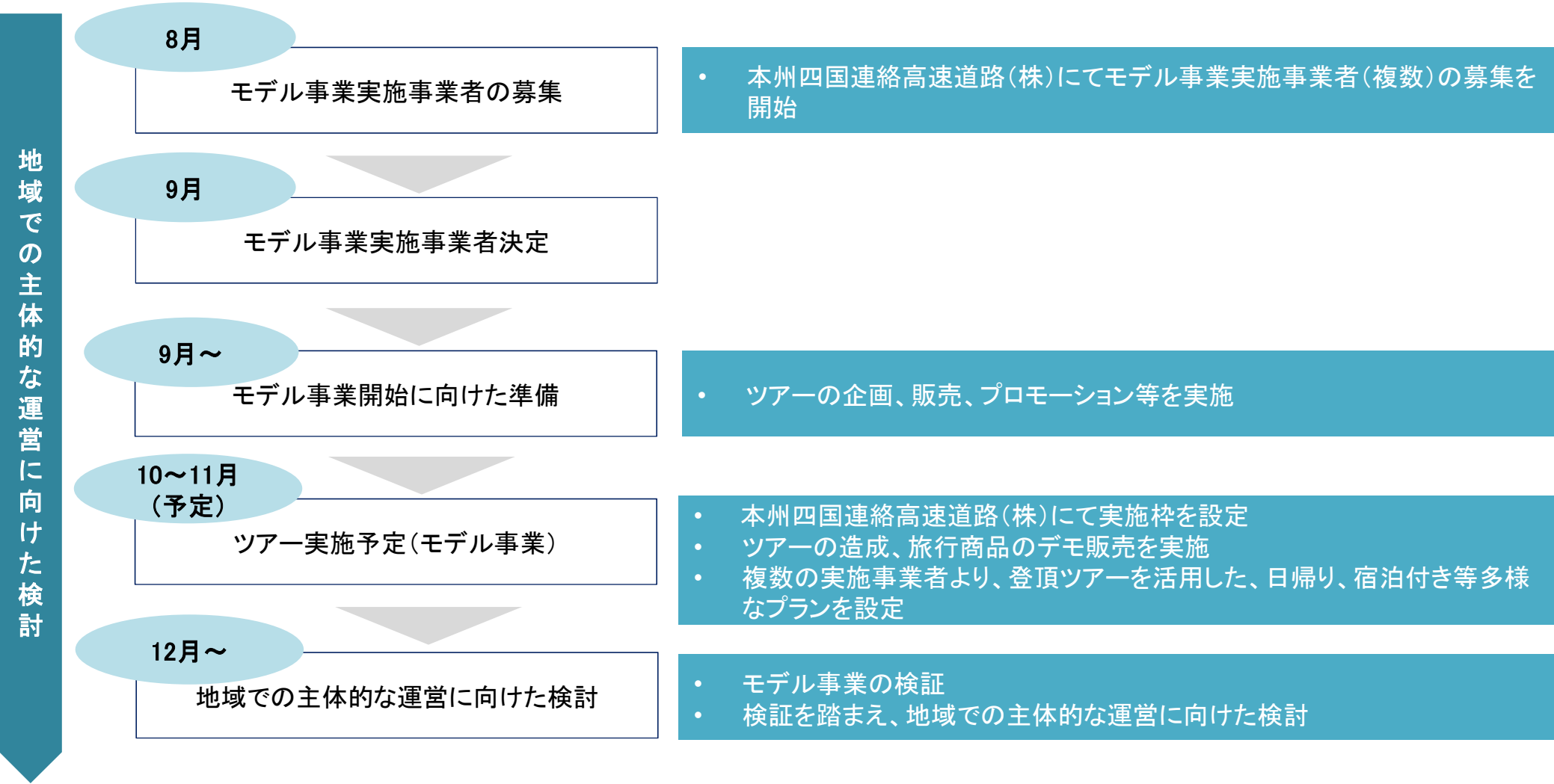
○募集人員16名

ようみいきいき館～(船)～馬島→来島海峡大橋8P主塔登頂&桁外面作業車体験→馬島～(船)～ようみいきいき館(バーベキュー)



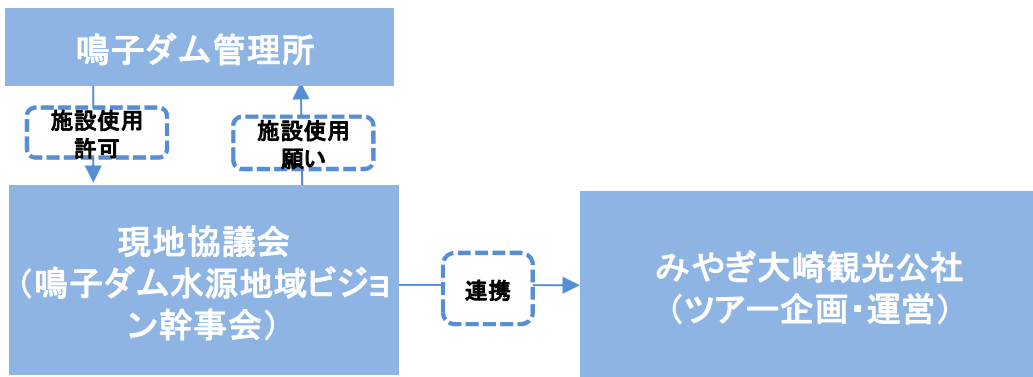
2. 各モデル地区の進捗状況と今後の予定 -来島海峡大橋④-

◆ 今後の進め方



2. 各モデル地区の進捗状況と今後の予定 ―鳴子ダム①―

体制・運営スキーム(案)



モデル地域ステークホルダー

<協議会>

鳴子ダム水源地域ビジョン幹事会

大崎市、宮城県、(一社)みやぎ大崎観光公社、NPO法人鬼首山学校協議会、大崎市立鬼首小学校、鬼首地域づくり委員会、鳴子まちづくり協議会、鳴子温泉郷観光協会、(株)オニコウベ、大崎地域水管理協議会、東北電力(株)、鳴子ダム管理所

<その他関与者>

—

	R3年度				R4年度			
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
鳴子ダム		●6/29 整備局打合せ	●10/18 整備局打合せ	●1/20 現地協議会	●5/18 整備局打合せ	自走化に向けて実施方針等を協議		
	民間事業者によるツアーの企画・販売							
	これまでの取組		今後に向けた課題		今後の実施・検討項目(案)			
① 運営体制の構築	・みやぎ大崎観光公社を中心としたツアー運営体制の構築		・「河川空間のオープン化」の活用へ向けた課題点の整理		・「河川空間のオープン化」を活用した体制構築に向けた準備			
② インフラ施設見学の深度化・地域の観光資源と連携した内容の検討	・ライトアップやインクラインを活用したコンテンツの形成 ・地域での自走化を見据えた商品内容、販売方法の検討 ・地域の資源や現状と相性が良い、コンテンツ、ターゲットの設定		・ターゲット別のニーズを踏まえたコンテンツ内容の詳細化		・ターゲット設定(首都圏/高所得者、小・中学生向け)を踏まえたコンテンツ・商品内容の検討と商品に合わせた販売方法の検討			
③ インフラツーリズムの実践	・プロモーション戦略の検討 ・ライトアップ・インクラインを活用した商品の販売		・ターゲットを踏まえたプロモーション・販売窓口の検討		・ターゲット設定や商品バリエーションに合わせ、プロモーション戦略の方針を検討			

2. 各モデル地区の進捗状況と今後の予定 ー鳴子ダム②ー

◆R3年～R4年に実施したツアー(実施主体:みやぎ大崎観光公社)

2021 普段立ち入ることのできない鳴子ダム堤体の直下へ入る大人気ツアー 秋色の鳴子ダム 直下見学ツアー 日帰り

ノルディックウォーキングツアー

出発日 **10月31日** 日

おひとりさま(大人・小人同額)

旅行代金 **2,000円**

■募集定員:20名(最少催行人員 10名)

■添乗員:なし ■現地係員:あり

■現地ガイド:同行 ■食事:なし

■集合場所:義経啼子橋下(大崎市鳴子温泉字湯田)



ダム管理所見学付きバスツアー

出発日 **11月3日** 祝

おひとりさま(大人・小人同額)

旅行代金 **4,200円**

■募集定員:15名(最少催行人員 10名)

■添乗員:同行 ■食事:なし

■集合場所:鳴子温泉駅前

■利用バス会社:ホーデンランナース

新型コロナウイルス感染症防止への取り組みについて

掲載ツアーは日本旅行業協会が定める「旅行業における新型コロナウイルス対応ガイドライン」にそって実施します



旅行企画・実施

宮城県知事登録旅行業第2-346号 AMTA 正会員

一般社団法人 **みやぎ大崎観光公社**
Miyagi Chokai Kankou Kousya

宮城県大崎市古川七丁目3-10 観光内 蔵10

国内旅行業務取扱管理者 保原 裕郎

〇担当者の説明に不明な点がなければ旅行業務取扱管理者にご説明いたします

☎ 0229-25-9620

☎ 0229-25-8635

✉ travel@mo-kankoukousya.or.jp

🌐 <https://www.mo-kankoukousya.or.jp>

平日 9:00～17:00

(土日祝日休)

※8/13～16は
休業となります



①ノルディックウォーキングツアー

- ✓ ノルディックガイド同行で片道約3km
- ✓ 鳴子ダム直下見学
- ✓ 紅葉時期に実施

【行程】

義経啼子橋下集合・受付～準備体操～ノルディックウォーキング～鳴子ダム直下～義経啼子橋下



②ダム管理所見学付きバスツアー

- ✓ 鳴子ダム直下見学
- ✓ 鳴子ダム職員による説明

【行程】

鳴子ダム温泉駅前～鳴子ダム管理所(管理所内操作室、屋上、本山隧道トンネル、天端)～鳴子ダム直下見学～鳴子



2. 各モデル地区の進捗状況と今後の予定 ー 鳴子ダム③ー

1日1組限定

鳴子ダム 2日間 堤体見学ツアー

写真は全てイメージです



鳴子ダム職員による説明でもっと詳しくダムを知ろう！

10のオススメポイント

- ①鳴子ダム職員による説明
- ②ダム操作室見学
- ③ダム展示室・本山隧道見学
- ④ダム湖の眺望※1
- ⑤インクラインに乗って堤体内探検！
- ⑥ダムで貯蔵した日本酒『大和伝』1人1本付き※2
- ⑦ダムノート、ダムカード付き（1人1セット）
- ⑧秘湯のお宿へ宿泊！夕食はお部屋食の貸切露天風呂付
- ⑨地元在住ドライバーが観光タクシーで鳴子観光（1日目）
- ⑩ダムまで送迎付き（2日目）

※1 眺望時は露臺テラスからの見学になります。
※2 本ツアーのお客さまにはダムで貯蔵した日本酒の代わりにパテック・カルペルなど同様のものをご用意します。

宿泊	旅館大沼	食事	朝1回・夕1回
タクシー	中山平タクシー	添乗員	なし
最少催行人数	1名		

日・祝日出発、大人・小人同額、1組1名～3名まで、予約は2週間前まで

出発日	旅行代金
2022年 2月20（日）・27（日） 3月13（日）・21（月・祝）	2～3名1室（おひとり様） 31,000円
1名1室	8,000円増し

GoToトラベル事業について（2021年12月1日付）
GoToトラベル再開が決定した際には改めて弊社ホームページでご案内いたします。

協力 国土交通省東北地方整備局鳴子ダム管理所

一般社団法人 Miyagi Onoki Tourism Bureau
みやぎ大崎観光公社

③鳴子ダム堤体見学ツアー

- ✓ 1日1組限定
- ✓ 1泊2日、鳴子温泉での宿泊付き
- ✓ 観光タクシーでの移動
- ✓ インクライン乗車体験＋ダム堤体内部の見学
- ✓ ダム貯蔵の日本酒

【行程】

1日目：

鳴子温泉駅/旅館大沼発、観光タクシーで鳴子観光フリープラン

2日目：

旅館大沼～鳴子ダム（2時間見学）～鳴子温泉駅/旅館大沼



2. 各モデル地区の進捗状況と今後の予定 — 鳴子ダム④ —

◆今後実施予定のツアー(実施主体:みやぎ大崎観光公社)

一般社団法人 Miyagi Ozaki Tourism Bureau
みやぎ大崎観光公社
TEL 0229-25-9620 FAX 0229-25-8635
travel@mo-kankoukousya.or.jp https://www.mo-kankoukousya.or.jp
営業日 平日 9:00~17:00 / 土日祝休業(但し登壇日と異なります)
※土曜日のみ4月15日から16日まで休業となります

宿泊
特集号
2022年7月1日発行
お申込みは電話・FAX・ホームページにて

お申込みの際に①コース名②出発日③人数④氏名
⑤TEL⑥住所⑦性別⑧生年月日⑨食物アレルギー
の有無をお伝えください。

親子de鳴子ダム堤体見学ツアー
協力 国土交通省東北地方整備局鳴子ダム管理所

2日間
各日限定
1組

親子de鳴子ダム堤体見学ツアー
2日間

2日目オプションプラン

出発日 7月29日
旅行代金 (2名1組) 大人 17,000円 小人 12,000円

2日目オプションプラン
出発日 8月21日
旅行代金 (2名1組) 大人 22,000円 小人 14,000円

④2日目オプションプラン(オニコウベスキー場)

⑤潟沼SUP体験付きプラン

④2日目オプションプラン(オニコウベスキー場)

- ✓ 1日1組(宿泊付き)
- ✓ ノルディックガイド同行で片道約3km
- ✓ 鳴子ダム直下見学
- ✓ 紅葉時期に実施

⑤潟沼SUP体験付きプラン

- ✓ 1日1組(宿泊付き)
- ✓ 鳴子ダム直下見学
- ✓ 鳴子ダム職員による説明
- ✓ インクライン乗車体験+堤体内部の見学

一般社団法人 Miyagi Ozaki Tourism Bureau
みやぎ大崎観光公社
TEL 0229-25-9620 FAX 0229-25-8635
travel@mo-kankoukousya.or.jp https://www.mo-kankoukousya.or.jp
営業日 平日 9:00~17:00 / 土日祝休業(但し登壇日と異なります)

秋休み
特集号
2022年9月1日発行
お申込みは電話・FAX・ホームページにて

お申込みの際に①コース名②出発日③人数④氏名
⑤TEL⑥住所⑦性別⑧生年月日⑨食物アレルギー
の有無をお伝えください。

秋休み親子バスツアー

第1弾 仙台・古川発 自然博物館・金沢公園・金沢公園
Waku Waku わくわく! みちのくGOLD ゴールド!
〜天然砂金採りととんぼ玉作り〜

Waku Waku! Doki Doki! Paka Paka!
ツアーでしか体験できない沢で天然砂金採り
バーナーでガラスを溶かしてとんぼ玉づくり
豪華なおみやげをプレゼント! 賞品もたくさんあります!

出発日 10月10日
旅行代金 (2名1組) 大人 9,800円 小人 8,800円

第2弾 仙台・古川発 自然博物館・金沢公園・金沢公園
Oh! saki! 田舎で遊ぼう
〜鳴子ダム見学とそば打ち体験・竹とんぼづくり〜

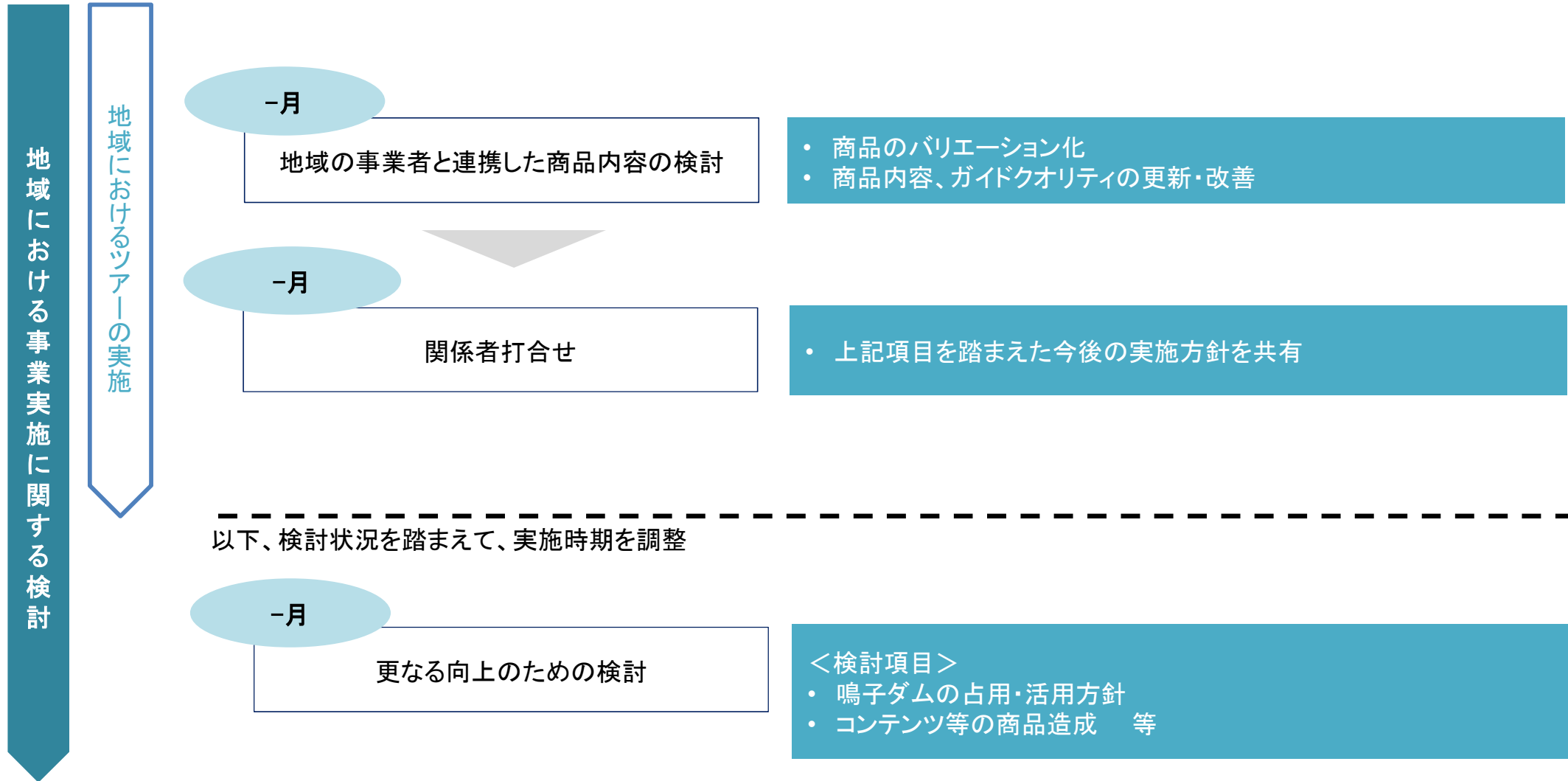
Oh! saki! Oh! saki! Oh! saki!
こんなところに? 大崎の自然・文化・風景を満喫しよう!

出発日 10月11日
旅行代金 (2名1組) 大人 9,800円 (小人同額)

バス座席について 乗車人数を制限して実施します。別のグループの方との相席はございません。

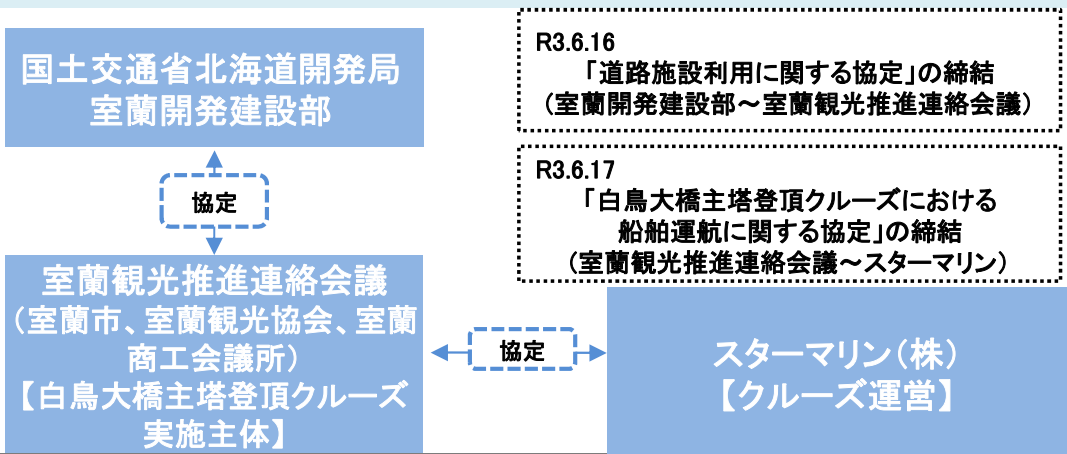
2. 各モデル地区の進捗状況と今後の予定 ―鳴子ダム⑤―

◆ 今後の進め方



2. 各モデル地区の進捗状況と今後の予定 -白鳥大橋①-

体制・運営スキーム



モデル地域ステークホルダー

＜協議会＞
白鳥大橋インフラツーリズム魅力増進プロジェクト現地協議会
室蘭観光推進連絡会議(室蘭市、室蘭観光協会、室蘭商工会議所)、ワーキンググループメンバー、アドバイザー(篠原靖委員)、北海道開発局

＜ワーキンググループ＞
白鳥大橋インフラツーリズム魅力増進プロジェクト現地協議会 WG
室蘭観光推進連絡会議、スターマリン(株)、Li World(株)(広告コンサルタント会社)、宿泊事業者

＜その他関与者＞
(株)栗林トラベル・サポート

	R3年度				R4年度			
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
白鳥大橋	●6/10 整備局打合せ	主塔登頂クルーズ運行	10月16～18 モニターツアー		主塔登頂クルーズ運行			

	これまでの取組	今後に向けた課題	今後の実施・検討項目(案)
① 運営体制の構築	・「民間クルーズとしての自走化する中でガイド等を含む、運営体制の検証	・販路・商品形態の拡大へ向けた、販売体制の構築	・OTA等を活用した販路の構築 ・販路の管理方法における課題の整理
② インフラ施設見学の深度化・地域の観光資源と連携した内容の検討	・宿泊・交通事業者等との連携に向けた検討	・コンテンツのバリエーション化及び質・顧客満足度の向上へ向けた取組	・ツアー商品の質向上に向けた検討 ・ガイドクオリティの向上 ・室蘭周辺の観光素材の整理 ・催行率向上に向けた対策の検討
③ インフラツーリズムの実践	・一般向け/事業者向けモニターツアーの実施	・ツアー商品の認知拡大	・ターゲット設定や商品バリエーションに合わせたプロモーション戦略の検討(これまで実施した、しているプロモーションとの効果的な連携・連動方法も併せて検討する)

2. 各モデル地区の進捗状況と今後の予定 -白鳥大橋②-

◆事業者向けモニターツアー

<行程>

令和3年10月18日(月)10:00-13:00

10:00-12:00 白鳥大橋主塔登頂クルーズ(体験乗船)

12:00-13:00 意見交換会

<参加者>

- ・ 交通事業者(タクシー、バス)
- ・ 宿泊事業者(登別・洞爺湖)
- ・ その他旅行会社、バス会社 等

<意見交換会・アンケートとりまとめ>

- ・ 修学旅行については、班別だと対応可。
- ・ 事前の案内事項が多い。宿泊客に商品の案内は可能。
- ・ 夜の催行だと、登別温泉の宿泊客への販売が想定できる。(天候や催行率の低さが課題)
- ・ 日別の催行率の目安として、天候(風・波)の情報を提供して欲しい。
- ・ 天候不順、波の具合による運休時の対応の検討が必要。
- ・ 白鳥大橋主塔クルーズをメインに、近隣の観光資源と組み合わせたツアーを販売していきたい。
- ・ パッケージツアー販売時には、プロモーション部分で他事業者と連携したいと思う。
- ・ 主塔クルーズは特別感があると感じた。クルーズ全体として、ストーリー性やテーマ性があれば良いと思う。
- ・ 最少催行人員は2名以上が望ましい。
- ・ 旅行期間中に予約する方が多い、宿泊事業者で案内してもらうのが良いと思う。
- ・ 最大12名の制限があると思うが、限定12名という打ち出し方もできる。
- ・ ガイドが写真を撮影し、販売するのはどうか。/撮影機材(Go Pro等)の貸し出しを行うのはどうか。
- ・ 危険箇所等注意事項の事前案内について、工夫が必要だと思う。実際にツアー時に注意が必要な箇所を撮影し、事前の案内時に写真を使ってイメージを掴んでもらう。
- ・ クルージング時に写真がキレイに撮れるポイントを案内し、撮影時間をもうけると良いと思う。
- ・ クルーズ船の設備を整える必要があると思う。(シートや強風対策等)
- ・ 防寒対策については十分な事前案内が必要。
- ・ ガイドのクオリティの統一が必要。

2. 各モデル地区の進捗状況と今後の予定 -白鳥大橋③-

◆一般向けモニターツアー ○令和3年10月16日（土）

白鳥大橋主塔登頂クルーズ&アンカレイジ見学（説明付き）と むろらん街歩き

～～ 新たな魅力を発見!! フォトスポットを巡る ～～
■ご出発日/ 2021年10月16日(土)
■モニター旅行代金/ 大人お一人様 8,000円
(小人お一人様 5,500円※) ※小人料金対象: 小学4年～6年生 (小学3年生以下はご参加いただけません)
■バス乗降場所・出発時刻ご案内
 JR東室蘭駅東口 10時00分
■旅程

行 程 ●入場観光 ●下車観光	食 事
JR東室蘭駅東口(10:00) == 旧室蘭駅舎...専門ガイドのご案内◎室蘭の古い町並み散策(旧室蘭駅舎・北炭倶楽部・旧三菱合資会社室蘭出張所・問屋坂・日本一の坂など) [約75分] == みたら室蘭(11:40頃) [昼食: くら食堂 / 白鳥大橋記念館見学] [約70分] (白鳥大橋主塔登頂クルーズの定員が12名のため、これより2班に分かれて行動) *＜A班＞: 定員12名 みたら室蘭(12:50頃)...乗下船場(みたら室蘭横) ～ ●白鳥大橋主塔登頂+室蘭港内クルーズ [約120分] ～ 乗下船場(みたら室蘭横) ...みたら室蘭 == ◎アンカレイジ見学 [約40分] == ◎地球岬展望台 [約20分] == みたら室蘭(17:10頃) *＜B班＞: 定員12名 みたら室蘭(12:50頃) == ◎地球岬展望台 [約20分] == ◎アンカレイジ見学 [約40分] == みたら室蘭...乗下船場(みたら室蘭横) ～ ～ ●白鳥大橋主塔登頂+室蘭港内クルーズ [約120分] ～ 乗下船場(みたら室蘭横) ... みたら室蘭(17:10頃) <A班・B班合流> みたら室蘭(17:10頃) == 室蘭駅前バス停 == JR東室蘭駅東口(17:40頃着) 【白鳥大橋主塔登頂+室蘭港内クルーズ欠航時の行程】 ※気象・海況状況などにより欠航となる場合がございます。別紙注意事項をご確認ください ※モニターツアーのため、欠航時には白鳥大橋主塔登頂クルーズの乗船券をお渡しいたします。各自で期日までにご利用いただくことがご参加条件となります。 JR東室蘭駅東口(10:00) == 旧室蘭駅舎...専門ガイドのご案内◎室蘭の古い町並み散策(旧室蘭駅舎・北炭倶楽部・旧三菱合資会社室蘭出張所・問屋坂・日本一の坂など) [約75分] == みたら室蘭(昼食: くら食堂 / 白鳥大橋記念館見学) [約70分] == ◎地球岬展望台 [約20分] == ◎アンカレイジ見学 [約40分] == JR東室蘭駅東口(15:00頃着) ※記号について 船舶(スターマリン) ～～ バス == 徒歩 ...	朝 - 昼 ○ タ -

※現地見学の都合や交通事情等により、行程が変更となる場合がございます。
 ■利用/バス会社/道南バス(株) ■クルーズ運航会社/スターマリン(株)
 ■旅行代金に含まれるもの/旅程表記載の移動費用及び有料施設入場料・食事代(昼食1回) ■最少催行人員/15名様 ■募集人員/24名様 ■添乗員/同行いたします

■ナイトクルーズ【ご旅行代金】大人4,000円(小人2,500円) 最少催行人員/10名 ※気象・海況状況などにより欠航となる場合がございます。詳しくは別紙注意事項をご確認ください
 行程: 17:15までにくスターマリン道の駅みたら室蘭営業所>に各自お集りください。... 乗下船場(みたら室蘭横) ～
 ●ナイトクルージング [約60分] ～ 乗下船場(みたら室蘭横) ... みたら室蘭 == JR東室蘭駅東口(19:10頃着)
■宿泊ホテルプラン/ホテルルートイン東室蘭駅前 【宿泊料金】1泊朝食付 お一人様 シングル7,400円 ツイン6,500円

令和3年10月17日（日）

白鳥大橋主塔登頂クルーズ&アンカレイジ見学（説明付き）と ボルタ工房『白鳥大橋と工場風景』模型製作体験

■ご出発日/ 2021年10月17日(日)
■モニター旅行代金/ 大人お一人様 8,000円
(小人お一人様 5,500円※) ※小人料金対象: 小学4年～6年生 (小学3年生以下はご参加いただけません)
■バス乗降場所・出発時刻ご案内
 JR東室蘭駅東口 10時00分
■旅程

行 程 ●入場観光 ●下車観光	食 事
JR東室蘭駅東口(10:00) == (白鳥大橋経由) == 道の駅みたら室蘭(10:30頃) (白鳥大橋主塔登頂クルーズの定員が12名のため、これより2班に分かれて行動) *＜A班＞: 定員12名 みたら室蘭(10:30頃)...乗下船場(みたら室蘭横) ～ ●白鳥大橋主塔登頂+室蘭港内クルーズ [約120分] ～ 乗下船場(みたら室蘭横) ... みたら室蘭 [昼食: くら食堂] == ●ボルタ工房 [製作体験/約40分] == みたら室蘭(白鳥大橋記念館見学・お買物) [約40分] (16:00頃) *＜B班＞: 定員12名 みたら室蘭(10:30頃) == ●ボルタ工房 [製作体験/約40分] == みたら室蘭 [昼食: くら食堂] ... 乗下船場(みたら室蘭横) ～ 1 ●白鳥大橋主塔登頂+室蘭港内クルーズ [約120分] ～ 乗下船場(みたら室蘭横) ... みたら室蘭(白鳥大橋記念館見学・お買物) [約40分] (16:00頃) <A班・B班合流> みたら室蘭(16:00頃) == ◎アンカレイジ見学 [約40分] == JR東室蘭駅東口(17:10頃着) 【白鳥大橋主塔登頂+室蘭港内クルーズ欠航時の行程】 ※気象・海況状況などにより欠航となる場合がございます。別紙注意事項をご確認ください ※モニターツアーのため、欠航時には白鳥大橋主塔登頂クルーズの乗船券をお渡しいたします。各自で期日までにご利用いただくことがご参加条件となります。 JR東室蘭駅東口(10:00) == (白鳥大橋経由) == ●ボルタ工房 [製作体験/約40分] == みたら室蘭 [昼食: くら食堂 / 白鳥大橋記念館見学・お買物 約40分] == ◎アンカレイジ見学 [約40分] == JR東室蘭駅東口(14:10頃着) ※記号について 船舶(スターマリン) ～～ バス == 徒歩 ...	朝 - 昼 ○ タ -

※現地見学の都合や交通事情等により、行程が変更となる場合がございます。
 ■利用/バス会社/道南バス(株) ■クルーズ運航会社/スターマリン(株)
 ■旅行代金に含まれるもの/旅程表記載の移動費用及び有料施設入場料・食事代(昼食1回) ■最少催行人員/15名様 ■募集人員/24名様 ■添乗員/同行いたします

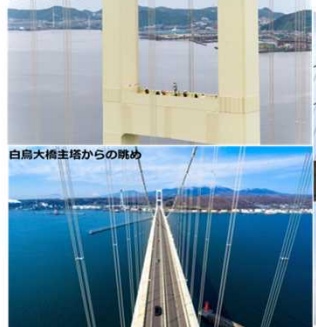
白鳥大橋

平成10年に完成した東日本最大の吊り橋で橋長1,380m。道央自動車道と室蘭市街を結ぶ国道37号に架橋されており、主塔の高さは約140m。見学できる主塔中間部の高さ100m。室蘭港が一望できる絶景スポット。



白鳥大橋主塔

白鳥大橋主塔の下から見上げた景色



白鳥大橋主塔からの眺め



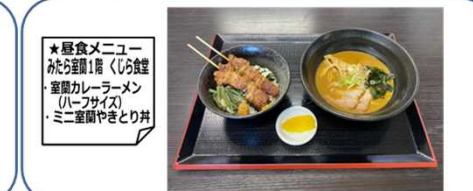
アンカレイジ

吊り橋のメインケーブルを固定(定着)させる為の巨大なコンクリートブロック



★昼食メニュー

みたら室蘭1階くくら食堂
室蘭カレーラーメン(ハーフサイズ)
ミニ室蘭やきとり丼



2. 各モデル地区の進捗状況と今後の予定 -白鳥大橋④-

◆ 白鳥大橋主塔登頂クルーズ

スターマリン(株)による白鳥大橋主塔登頂クルーズの運行を令和3年7月22日から開始
 ※運行期間4月～11月(催行状況:令和3年7月～11月 催行便数11便、乗客数109人)

○コース

標準プラン

お申し込み人数が5名以上の場合、運行

コース	料金	所要時間
標準コース 白鳥大橋主塔登頂+港内クルーズ (ハーフ)	大人5,000円 小人2,500円	約120分

催行確定プラン

お申し込み人数が5名以下の場合でも運行

コース	乗船人数	料金	所要時間
標準コース 白鳥大橋主塔登頂+港内クルーズ(ハーフ)	2名	大人12,500円 小人6,250円	約120分
	3名	大人8,300円 小人4,150円	
	4名	大人6,250円 小人3,150円	

5名以上の団体で乗船される方

コース	料金	所要時間
標準コース 白鳥大橋主塔登頂+港内クルーズ(ハーフ)	大人5,000円 小人2,500円	約120分
白鳥大橋主塔登頂のみ	大人4,000円 小人2,000円	約70分
白鳥大橋主塔登頂+港内クルーズ	大人6,000円 小人3,000円	約140分

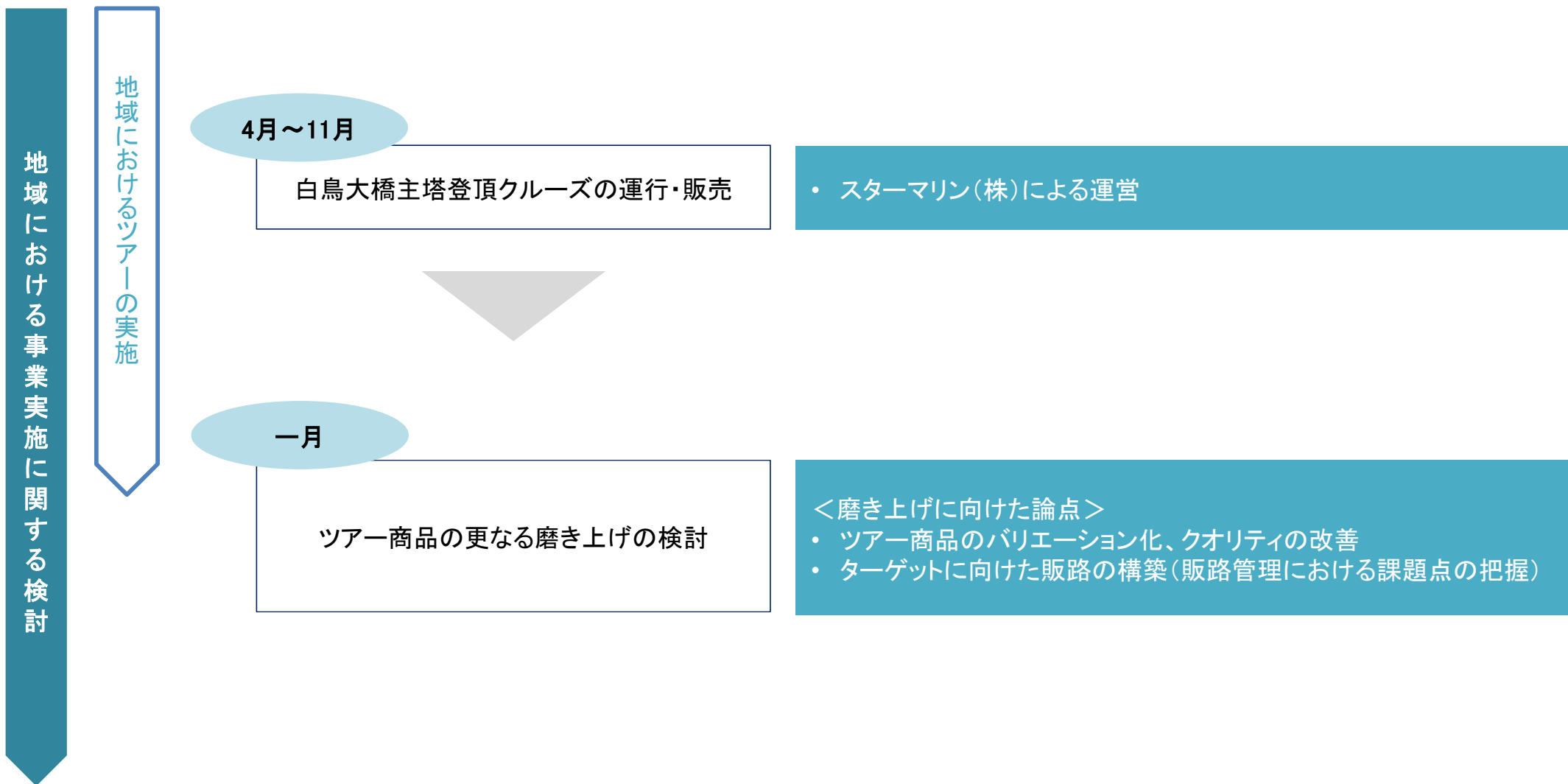


※スターマリン(株)サイトより抜粋

https://star-marine.co.jp/cruise/hakuchoclimb_cruise.html

2. 各モデル地区の進捗状況と今後の予定 -白鳥大橋⑤-

◆ 今後の進め方



2. 各モデル地区の進捗報告 -ハッ場ダム①-

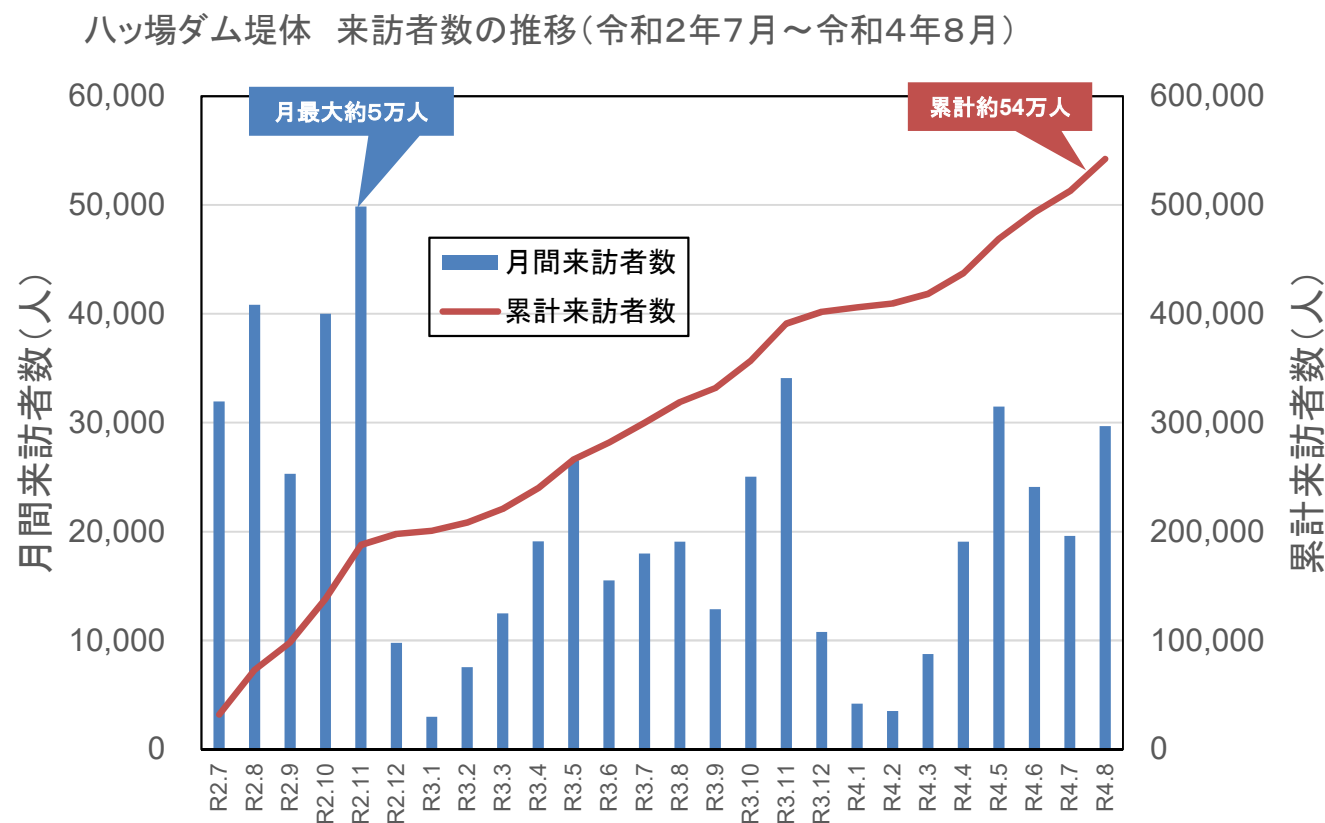
【参考】堤体来訪者の状況等

ハッ場ダムの堤体付近及びダム湖周辺地域では、既存の観光資源や新たに整備した地域振興施設の更なる利活用が求められており、『ハッ場ダム水源地域ビジョン』により、吾妻溪谷や浅間山が育む豊かな自然環境の恵み、魅力ある地域の観光資源、地場産業、ハッ場ダム周辺の様々な施設等を、ダム上下流地域の連携によって総合的に活用し、ハッ場地域全体の自立的・持続的な発展を推進しています。

今後も、管理棟やダム堤体等を活用した取り組みを実施していきます。

ハッ場ダム 堤体来訪者数(令和2年7月～令和4年8月)

令和2年7月から一般開放しているハッ場ダム堤体には連日、多くの観光客が訪れており、令和4年8月時点で累計約54万人の方が来訪しました。



2. 各モデル地区の進捗報告 -ハッ場ダム②-

【参考】湖面利用の状況

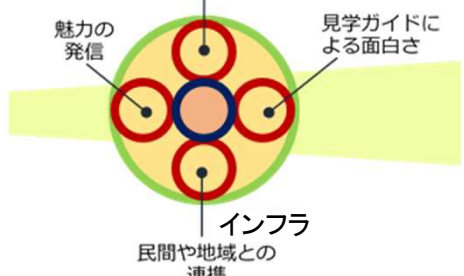
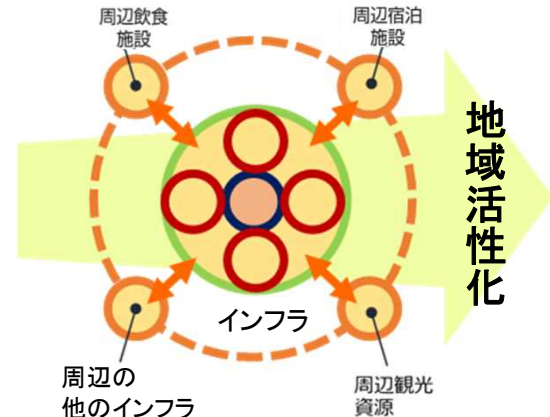
令和2年度より、水陸両用バス、バンジー・ジャンプ、カヌー・カヤック等の湖面利用が開始されました。
令和3年3月に河川空間のオープン化(都市・地域再生等利用区域指定)に伴い、ダムサイトでのキッチンカー販売や日本酒の貯蔵が開始されました。また、令和4年1月より観光船が運航開始されました。



2. 今後の予定

—インフラツーリズム拡大のステップと3つの検討項目の関連—

①～③の関連を以下のとおり整理。

土木広報 ～インフラツーリズムの基礎～	土木広報＋付加価値 ～魅力ある観光資源へ～	(土木広報＋付加価値) × 周辺観光資源 ～地域と連携した観光地域づくり～
土木施設の役割や必要性を学ぶ見学  インフラ	インフラの特性に応じた見せ方 魅力の発信 見学ガイドによる面白さ インフラ 民間や地域との連携 	周辺飲食施設 周辺宿泊施設 周辺観光資源 周辺の他のインフラ インフラ 地域活性化 
土木広報としてインフラの見学会を実施している段階	インフラの見学会を磨き上げ、より広範囲から人を呼び込む段階	インフラと地域との連携により、周辺観光資源等にも立ち寄り、より一層地域活性化が図れる段階
施設管理者が実施主体 地域と連携した組織・民間事業者等が実施主体 		
検討①: インフラツーリズム運営体制の構築 検討②ー1: インフラ施設見学の深度化 (顧客価値の向上等) 検討②ー2: 地域の観光資源と連携したコンテンツ検討 (ターゲット層の設定、ストーリーの構築等) 検討③: インフラツーリズムの実践		

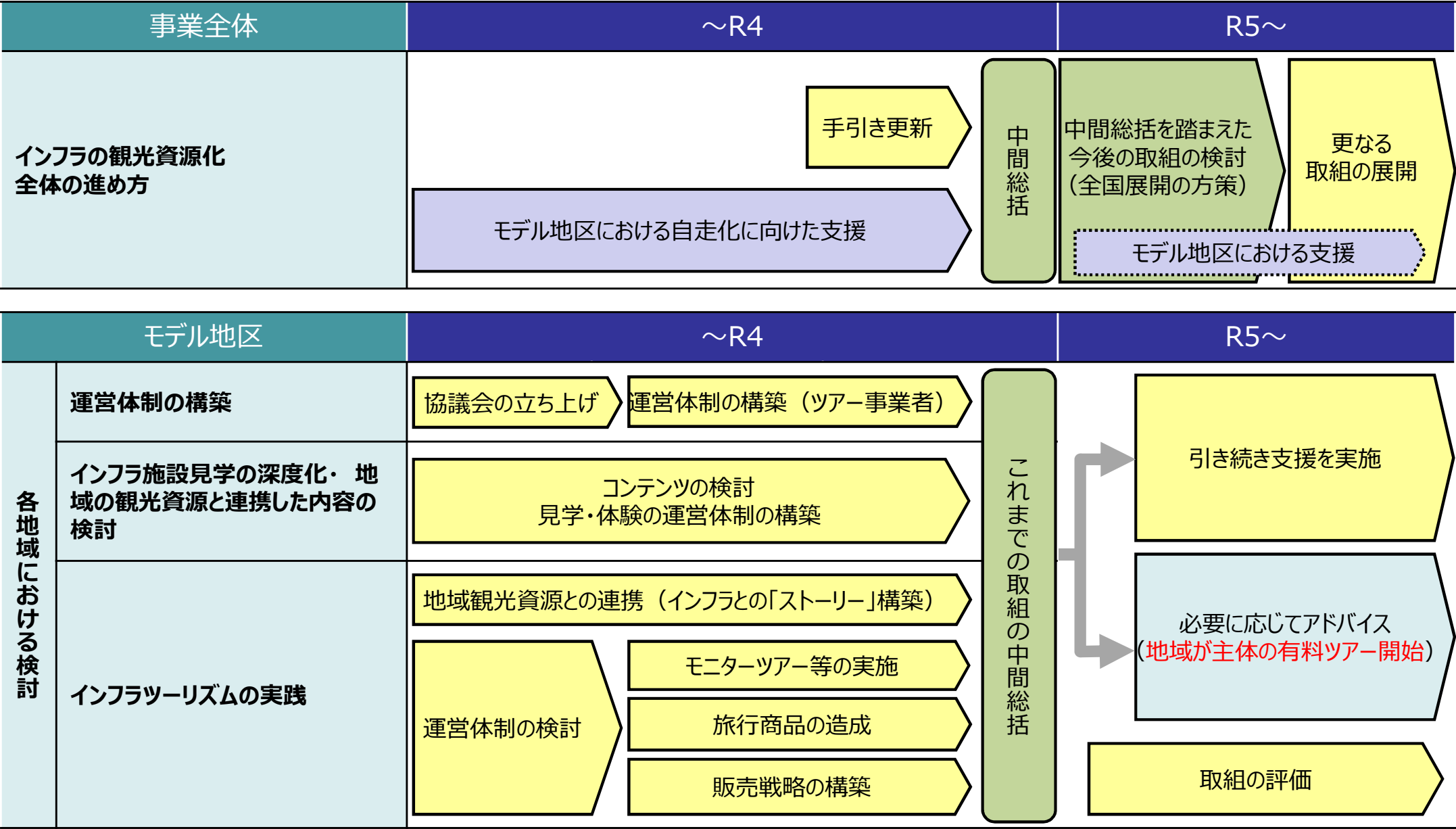
2. 今後の予定

ー各モデル地区の進捗状況一覧ー

◎:実施中(実施内容・役割分担等の決定)
○:検討中(概ねの方針決定段階)
△:検討中(方針未定、着手の初期段階(課題の整理等))
ー:検討未着手

	天ヶ瀬ダム	鶴田ダム	日下川新規放水路	来島海峡大橋	鳴子ダム	白鳥大橋	ハッ場ダム
検討① 運営体制の構築	△ ダム周辺整備に合わせた体制構築の実施スケジュール検討(合意形成)	△ 管理者、市町、民間等による運営体制を検討中	△ 体制構築に向けた実施スケジュール検討(合意形成)	○ 来島海峡大橋インフラツーリズム推進会議	◎ 鳴子ダム水源地域ビジョン幹事会	◎ 室蘭観光推進連絡会議 【クルーズ運行】 スターマリン(株)	◎ 地域・企業による運営
検討②-1 インフラ施設の深度化	△ ストーリーや今後の進め方を検討	△ ストーリーや今後の進め方を検討	△ ガイドの質向上に関する検討	○ モデル事業者による検討、実施後の検証	◎ ストーリーや今後の進め方を検討	○ ツアー商品の質向上の検討	◎
検討②-2 地域と連携したコンテンツ検討	△ 教育旅行向けコンテンツの検討 お茶や地域の歴史・文化をつなぐストーリーを検討	△ 地域資源と連携したツアー商品のバリエーション化	△ 教育旅行向けコンテンツの検討 その他ターゲットへ向けたコンテンツ検討	○ モデル事業者による検討、実施後の検証	◎ 地域資源と連携したツアー商品のバリエーション化	○ 地域資源と連携したツアー商品のバリエーション化	◎
検討③ インフラツーリズムの実践	ー	ー	ー	○ モデル事業者によるツアー実施	◎ 地域の事業者によるツアー開始	◎ 主塔登頂ツアー開始	◎ 地域・企業が主体のツアー開始

2. 今後の予定 ー事業全体スケジュールー



3. 「インフラツーリズム拡大の手引き」 改訂の骨子案

3. 「インフラツーリズム拡大の手引き」改訂の概要

◆改定の概要

- 平成30年11月に「インフラツーリズム有識者懇談会」を設立し、インフラを観光資源として活用するインフラツーリズムを展開していくために必要な方策について、幅広く議論を進めてきた。
- これらの議論を踏まえ、インフラツーリズムを推進している先行事例からインフラの魅力を引き出す工夫を学び、その工夫点を「インフラツーリズム拡大の手引き 一試行版一」として平成31年3月にとりまとめた。
- 現行版の課題解消や取組事例を充実させるため、令和4年度末を目標に改訂予定。

「インフラツーリズム拡大の手引き 一試行版一」

構成・内容

- ・ 課題を解決するための取組を「勘所」として整理
- ・ 目指すべき方向性ごとに見るべき「勘所」を整理

試行版の課題

- ・ 手引きの対象者が定まっていない
- ・ 観光そのものへの理解が必要
- ・ 取組の全体的な流れが分かりにくい

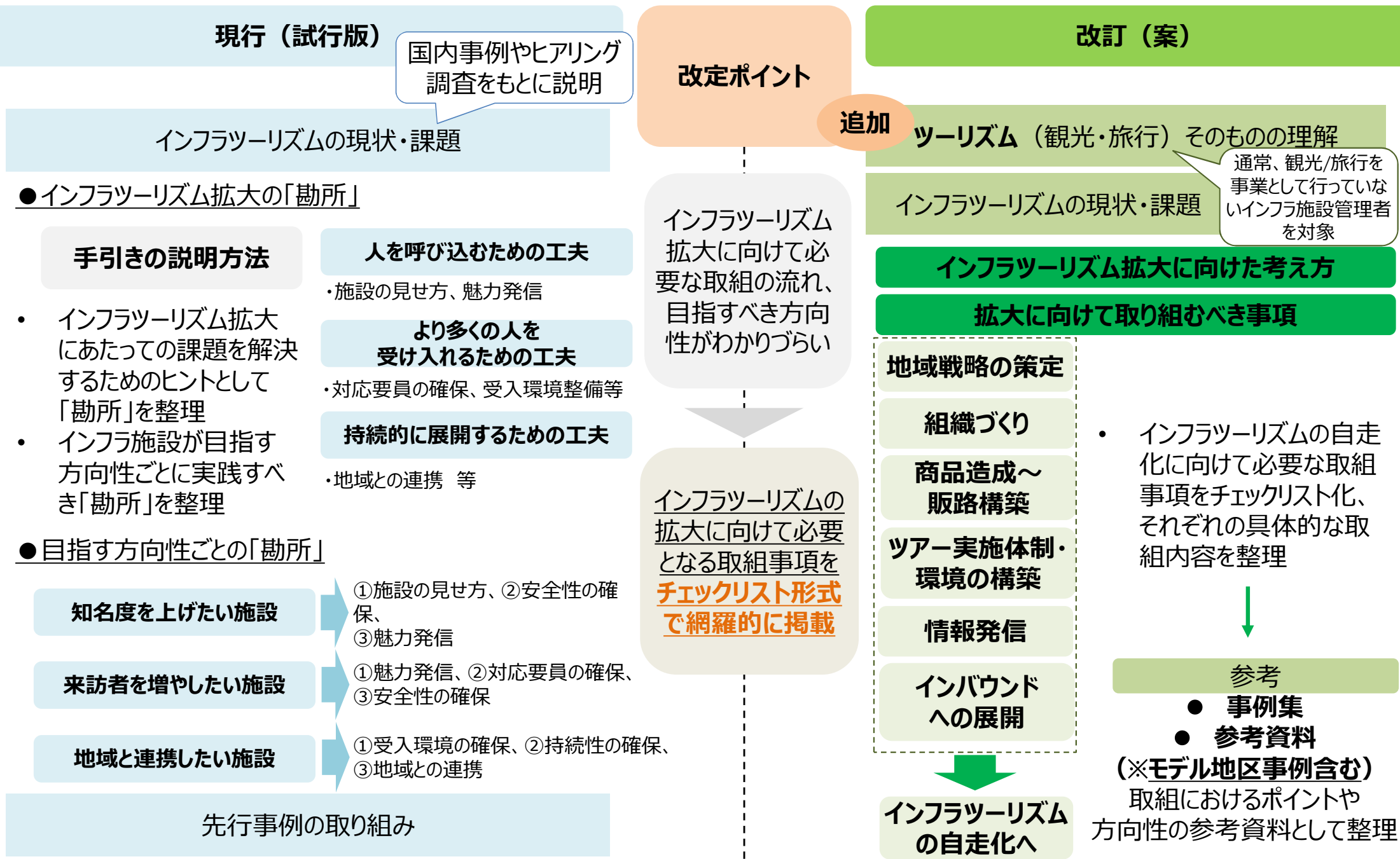
紹介する取組事例を充実

- ・ モデル地区(7地区)での検証
- ・ 全国の取組事例をヒアリング

改訂のポイント

- ・ 対象者は施設管理者をメインとしつつ、自治体や観光協会等にとっても参考資料となるように記載。
- ・ 普段、観光に携わらない施設管理者向けに、ツーリズム(観光・旅行)そのものの説明を追加。
- ・ インフラツーリズムの自走化に向けて必要な取組をチェックリスト形式で網羅的に記載。

3. 「インフラツーリズム拡大の手引き」改訂の方向性



3. 「インフラツーリズム拡大の手引き」(目次)

試行版目次

- はじめに 1
- 手引き活用のポイント 2
- 口 絵 3
- 1

現状と課題 5
 - 1 現状 5
 - 2 課題 6
- 2

インフラツーリズムのさらなる拡大に向けて 7
 - 1 拡大に向けた考え方 7
 - 2 全体のレベルアップでインフラツーリズムを拡大 9
 - 3 拡大への取り組み 10
- 3

インフラツーリズム拡大の「勘所」(かんどころ) 11
 - 1 「勘所」の概要 11
 - 2 「勘所」の使い方 12
 - 3 人を呼び込むための工夫 13
 - 4 人を受け入れるための工夫 21
 - 5 持続的に展開するための工夫 26
- 4

先進事例の取り組み 32
 - ハッ場ダム(群馬県) 33
 - 鬼怒川上流ダム群(栃木県) 35
 - 首都圏外郭放水路(埼玉県) 37
 - 宮ヶ瀬ダム(神奈川県) 39
 - 国道 289号八十里越(新潟県・福島県) 41
 - 天ヶ瀬ダム(京都府) 43
 - 明石海峡大橋(兵庫県) 45
 - 中国技術事務所+国道 185 号 休山トンネル(広島県) 47
 - 小谷村砂防堰堤群(長野県) 49
 - 第二海堡(千葉県) 50

改訂版目次

- はじめに
- 手引き活用のポイント
- 1章 インフラツーリズムを取り巻く環境
 - 1. 日本人の国内旅行の現状
 - 2. 訪日外国人の日本旅行の現状
 - 3. 教育旅行の動向
 - 4. インフラツーリズムに対する受容性
- 2章 インフラツーリズム拡大に向けた考え方
 - 1. 拡大に向けた考え方
 - 2. インフラツーリズム拡大に向けて取り組むべき事項
- 3章 インフラツーリズム拡大に向けて取り組むべき事項
 - 1. 地域とインフラの現状把握と地域戦略(全体構想)の検討
 - 2. 組織作り
 - 3. 商品造成～販路構築
 - 4. ツアー実施体制・環境の構築
 - 5. 情報発信
 - 6. インバウンドへの展開
- 4章 事例集
 - 1. 国内事例
 - 2. 海外事例
- 5章 参考資料
 - 1. ガイド
 - 2. コロナによる観光業界への影響
 - 3. 受容性調査(詳細)
 - 4. 教育旅行の動向(詳細)

3. 「インフラツーリズム拡大の手引き」（前段）

改訂版目次

- はじめに
- 手引き活用のポイント

- 1章 インフラツーリズムを取り巻く環境
 - 1. 日本人の国内旅行の現状
 - 2. 訪日外国人の日本旅行の現状
 - 3. 教育旅行の動向
 - 4. インフラツーリズムに対する受容性
- 2章 インフラツーリズム拡大に向けた考え方
 - 1. 拡大に向けた考え方
 - 2. インフラツーリズム拡大に向けて取り組むべき事項
- 3章 インフラツーリズム拡大に向けて取り組むべき事項
 - 1. 地域とインフラの現状把握と地域戦略（全体構想）の検討
 - 2. 組織作り
 - 3. 商品造成～販路構築
 - 4. ツアー実施体制・環境の構築
 - 5. 情報発信
 - 6. インバウンドへの展開
- 4章 事例集
 - 1. 国内事例
 - 2. 海外事例
- 5章 参考資料
 - 1. ガイド
 - 2. 新型コロナによる観光業界への影響
 - 3. 受容性調査（詳細）
 - 4. 教育旅行の動向（詳細）

<はじめに>

- ・試行版を踏襲

<手引き活用のポイント>

- ・試行版を踏襲しつつも、手引書の位置づけを明確化する内容を追加

【手引きの対象者】

施設管理者をメインとしつつ、自治体、民間事業者（観光協会や旅行会社等）にも参考となる内容を紹介。

【活用の方向性】

試行版の観点を踏襲しつつも、地域での自走可能な運営体制の構築、コンテンツの造成、情報発信施策等展開へ向けて取組べき項目の紹介。

3. 「インフラツーリズム拡大の手引き」（第1章）

改訂版目次

- はじめに
- 手引き活用のポイント

- 1章 インフラツーリズムを取り巻く環境
 - 1. 日本人の国内旅行の現状
 - 2. 訪日外国人の日本旅行の現状
 - 3. 教育旅行の動向
 - 4. インフラツーリズムに対する受容性
- 2章 インフラツーリズム拡大に向けた考え方
 - 1. 拡大に向けた考え方
 - 2. インフラツーリズム拡大に向けて取り組むべき事項
- 3章 インフラツーリズム拡大に向けて取り組むべき事項
 - 1. 地域とインフラの現状把握と地域戦略（全体構想）の検討
 - 2. 組織作り
 - 3. 商品造成～販路構築
 - 4. ツアー実施体制・環境の構築
 - 5. 情報発信
 - 6. インバウンドへの展開
- 4章 事例集
 - 1. 国内事例
 - 2. 海外事例
- 5章 参考資料
 - 1. ガイド
 - 2. 新型コロナによる観光業界への影響
 - 3. 受容性調査（詳細）
 - 4. 教育旅行の動向（詳細）

<1. 日本人の国内旅行の現状>

<2. 訪日外国人の日本旅行の現状>

国内、海外それぞれのターゲット層ごと（団体・個人、教育・一般、アジア・欧米等）の一般的な旅行ニーズ等を整理、通常観光や旅行を事業で行っていない施設管理者等へのマーケットの理解を図る

（コロナ前、2019年データ）

<3. 教育旅行の動向>

インフラツーリズムと相性の良い教育旅行について切り出して説明。中学校、高校における教育旅行市場の概要（費用感や人気の高い教育旅行コンテンツ）を整理

<4. インフラツーリズムに対する受容性>

受容性調査をもとにインフラツーリズム経験者の傾向や、一般消費者がインフラやインフラツーリズムに対するイメージ等を整理する。また、インフラツーリズム拡大に向けた課題についても掲載する。

3. 「インフラツーリズム拡大の手引き」（第2章）

改訂版目次

- はじめに
- 手引き活用のポイント

1章 インフラツーリズムを取り巻く環境

1. 日本人の国内旅行の現状
2. 訪日外国人の日本旅行の現状
3. 教育旅行の動向
4. インフラツーリズムに対する受容性

2章 インフラツーリズム拡大に向けた考え方

1. 拡大に向けた考え方
2. インフラツーリズム拡大に向けて取り組むべき事項

3章 インフラツーリズム拡大に向けて取り組むべき事項

1. 地域とインフラの現状把握と地域戦略（全体構想）の検討
2. 組織作り
3. 商品造成～販路構築
4. ツアー実施体制・環境の構築
5. 情報発信
6. インバウンドへの展開

4章 事例集

1. 国内事例
2. 海外事例

5章 参考資料

1. ガイド
2. 新型コロナによる観光業界への影響
3. 受容性調査（詳細）
4. 教育旅行の動向（詳細）

＜1. 拡大に向けた考え方＞ ※試行版を踏襲

「土木広報としてのインフラ見学会」に付加価値を付け、「人が呼べる観光資源としてインフラを磨き上げ」、更には地域のその他観光資源や事業者と連携して「周辺観光資源への立ち寄りや地域への宿泊を促し」、地域活性化を進めていく。

＜2. インフラツーリズム拡大への取り組み＞

- （1）地域とインフラの現状把握と地域戦略（全体構想）の検討
 - （2）組織づくり
 - （3）商品造成～販路構築
 - （4）ツアー実施体制・環境の構築
 - （5）情報発信
 - （6）インバウンドへの展開
- それぞれの取り組み事項については、地域の実情に応じて取り組み可能なものから着手する。

3. 「インフラツーリズム拡大の手引き」(第3章)

改訂版目次

- はじめに
- 手引き活用のポイント

1章 インフラツーリズムを取り巻く環境

1. 日本人の国内旅行の現状
2. 訪日外国人の日本旅行の現状
3. 教育旅行の動向
4. インフラツーリズムに対する受容性

2章 インフラツーリズム拡大に向けた考え方

1. 拡大に向けた考え方
2. インフラツーリズム拡大に向けて取り組むべき事項

3章 インフラツーリズム拡大に向けて取り組むべき事項

1. 地域とインフラの現状把握と地域戦略（全体構想）の検討
2. 組織作り
3. 商品造成～販路構築
4. ツアー実施体制・環境の構築
5. 情報発信
6. インバウンドへの展開

4章 事例集

1. 国内事例
2. 海外事例

5章 参考資料

1. ガイド
2. 新型コロナによる観光業界への影響
3. 受容性調査（詳細）
教育旅行の動向（詳細）

<1. 地域とインフラの現状把握と地域戦略（全体構想）の検討>

地域で持続的にインフラツーリズムを取り組むにあたって、地域とインフラが有する魅力や置かれた環境について把握する。そして、インフラの魅力を踏まえた見せ方や、インフラが生み出した空間の活用方法、周辺観光資源との連携の可能性について検討する。その上で、目指すべきゴールを念頭においた地域戦略（全体構想）を策定する。

- ・ 施設の魅力を高める見せ方、インフラが生み出した空間の活用方法（既存事例の紹介）
- ・ 周辺観光資源と連携したインフラツアー（既存事例の紹介）
- ・ ターゲット層等に関する仮説の設定からモニターツアーによる検証等を踏まえた地域戦略（全体構想）策定手法

<2. 組織づくり>

地域と連携してインフラツーリズムを推進するため、地域関係者による協議会の設置や、DMO、旅行会社等との連携を行う。

- ・ 協議会の構成、関係主体の役割分担
- ・ DMO、旅行会社との連携手法

<3. 商品の造成～販路構築>

具体的な商品造成にあたって、地域の現状や市場ニーズ等を把握した上で、具体的な商品化を行う。その上で、販路構築を行う。

- ・ 商品造成のフロー、商品設定にあたり検討すべき項目、販売価格の設定方法
- ・ 販路構築にあたってのポイント、販売体制

3. 「インフラツーリズム拡大の手引き」(第3章)

改訂版目次

- はじめに
- 手引き活用のポイント

1章 インフラツーリズムを取り巻く環境

1. 日本人の国内旅行の現状
2. 訪日外国人の日本旅行の現状
3. 教育旅行の動向
4. インフラツーリズムに対する受容性

2章 インフラツーリズム拡大に向けた考え方

1. 拡大に向けた考え方
2. インフラツーリズム拡大に向けて取り組むべき事項

3章 インフラツーリズム拡大に向けて取り組むべき事項

1. 地域とインフラの現状把握と地域戦略（全体構想）の検討
2. 組織作り
3. 商品造成～販路構築
4. ツアー実施体制・環境の構築
5. 情報発信
6. インバウンドへの展開

4章 事例集

1. 国内事例
2. 海外事例

5章 参考資料

1. ガイド
2. 新型コロナによる観光業界への影響
3. 受容性調査（詳細）
4. 教育旅行の動向（詳細）

<4. ツアー実施体制・環境の構築>

一般の入場を想定していないインフラ施設においてツアーを実施するにあたって、必要となる、受け入れ環境整備や安全性確保を行う。

- ・ 民間事業者、NPO等と連携した対応要員の確保方策
- ・ トイレ、駐車場等の受け入れ環境の整備、安全性の確保方策

<5. 情報発信>

迫力ある土木構造物、普段みることができないインフラ内部の見学、といったインフラの魅力が広く伝わるような情報発信を行う。

- ・ 情報発信にあたってのターゲットの設定、内容、発信ツール検討のポイント
- ・ 施設管理者による情報発信方策
- ・ 多様な主体との連携による情報発信方策

<6. インバウンドへの展開>

インバウンド受け入れを念頭において、必要な環境整備、情報発信を行う。

- ・ インバウンド受け入れ環境整備方策（案内看板の多言語化等）
- ・ インバウンド向けの情報発信方策

3. 「インフラツーリズム拡大の手引き」（第4-5章）

改訂版目次

- はじめに
- 手引き活用のポイント

1章 インフラツーリズムを取り巻く環境

1. 日本人の国内旅行の現状
2. 訪日外国人の日本旅行の現状
3. 教育旅行の動向
4. インフラツーリズムに対する受容性

2章 インフラツーリズム拡大に向けた考え方

1. 拡大に向けた考え方
2. インフラツーリズム拡大に向けて取り組むべき事項

3章 インフラツーリズム拡大に向けて取り組むべき事項

1. 地域とインフラの現状把握と地域戦略（全体構想）の検討
2. 組織作り
3. 商品造成～販路構築
4. ツアー実施体制・環境の構築
5. 情報発信
6. インバウンドへの展開

4章 事例集

1. 国内事例
2. 海外事例

5章 参考資料

1. ガイド
2. 新型コロナによる観光業界への影響
3. 受容性調査（詳細）
4. 教育旅行の動向（詳細）

<4章 事例集>

3章で記載した内容の補足や具体的な実施事例として、国内外の先進地域やモデル地区等の取り組みを紹介

<5章 参考資料>

インフラツーリズムに必要な要素や各章で記載した内容の詳細資料等を参考資料としてまとめ、説明

- ・ インフラツーリズムで重要な要素を占める「ガイド」について、基本的な機能や用意すべきアイテム（ガイドマニュアル等）について実例を用いて説明
- ・ 新型コロナの影響や受容性調査、教育旅行の動向について、より詳細な内容を記載